関大
関西大学校友会
吹田市山手町3丁目3番35
発行人　神屋敬民蔵
電話大阪(388)1121代表
振替口座大阪55594番

45年度 校友総会 27日太閤園で

全校友の参加を！

多彩な内容決まる

昭和四十五年度校友総会その他の事業計画を協議する常議員会は八月二十八日午後六時から、大阪弁護士会館に四十名出席して開かれ、日時と場所とも原案通り承認され、その結果九月二十七日午前十一時から大阪・網島〝太閤園〟で開催と決まり、演芸・福引などのアトラクションもとり入れ、多彩な内容を用意して多数校友の参加を待つことになった。また本年度事業計画の一つである本部事務機能の整備については、とくに名簿事務を能率的に処理するため、事務機を導入して機能の強化を図ることにした。

結果、東より、東京・富山・京都・大阪東・大阪南・大阪西成・岸和田・尼崎・神戸・姫路・高知・大分の各支部に贈られることになった。

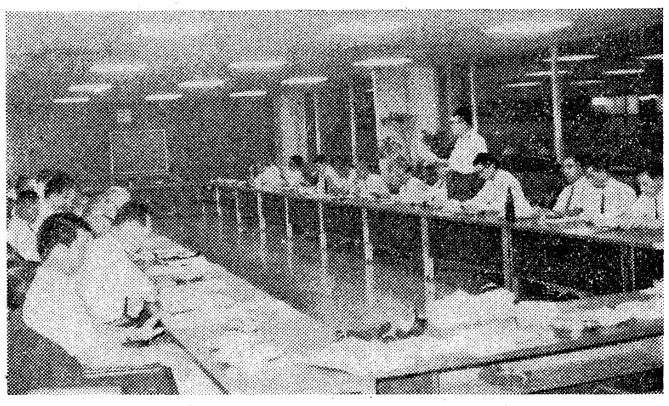
なお執行部では、全校友を参加対象とした年一回の中心的行事である校友総会に本年は日曜日でもあるので、多数校友誘い合わせの上参加されるよう切望している。

十二支部に感謝状

本年度校友総会については、前号既報の通り部長連絡会で骨子を決めたが、その後細目について具体案がなり、このほど常議員会で原案検討の結果、次の通り決まった。

◇日時　九月二十七日(日)
午前十一時半開会十一時半閉会
◇場所　大阪網島　太閤園
◇会費　千五百円(会員券前売)

―当日次第―
受付開始……午前十一時
(一部)開会
学歌斉唱
校友会長挨拶
叙勲受章者表彰　(織田佐代治・八木弦三・香坂要三郎・佐々木芳郎・山中秀太郎の各氏)
会務報告
大学の近況について(久井理事長・広瀬学長代行)
感謝状贈呈
(二部)懇親会
アトラクション(演芸―バトンプレイ梶本りん子とフアイヤー・バード、福引―ポータブルテレビほか景品多数)
終了予定……午後二時半
賛助出演　関西大学応援団吹奏楽部
なかでも本年度は、校友会地域支部にあって、結束力の困難な中で多年支部活動顕著である支部に対して感謝状を贈り、その功績をたたえることになった。その対象を過去十カ年間継続して支部総会を開催した地域支部に基準をおいた。


大阪弁護士会館で開かれた常議員会

事務の機械化推進

特別委答申　常議員会で決定

昭和四十五年度事業計画書の二項にある「本部事務機能の整備」については、過般来特別委員会の下で検討が重ねられていたが、八月二十一日付大島武夫委員長から標本会長あて答申書が提出された。

執行部では八月二十八日の常議員会に付議し、慎重審議の結果、答申にそって整備計画を推進することに満場一致決定した。

答申によると、本部事務局機構の問題点を理解するため調査のところ、現行の方法をとれば、①数年を出でずして十五万名に至る多数校友の名簿事務を処理するには限界が生ずる。②多年各機関より要望されている校友の支部会員名簿・職業分野別会員名簿の作成、その他の動態調査には不適であるなどの問題があり、これは「名簿資料をカードシステム化して、種々の基準による検索・分類のできる多面的に機能を具備した事務機械を導入して解消できる」との結論のもとに、機械化整備に踏み切ることにする。

また昨年の学園紛争による被害備品については機能上支障なきよう回復整備を図ること。次にこれら整備に要する経費五百五十万円の資金計画については校友による寄付募集をもって調達する旨答申されている。

常議員会では、校友会の長期展望に立った場合、機械化整備の段階に立ち至ったものと解せられるとして、答申にそって整備計画を進めることに決めた。そのため執行部では、近く趣意書に寄付要項を定め、広く校友に呼びかけることになった。

学長選挙に学生参加

候補に明石、鋳方、広瀬三教授

改革案第一次答申は学部長段階で意見の調整が行なわれていたが学長代行の任期が九月三十日までの状況から、学長選挙を学生参加を取り入れた暫定的規程で行ない、改革案は新学長のもとで検討を進めることになり、学長候補に明石三郎、鋳方良亮、広瀬指三の三教授が選ばれ、現在学生の除斥投票が行なわれている。

▽八月五日　調整会議、次期学長選挙に関しては第一次答申の提案を参考として暫定的な措置をとると決定。学生に対しては除斥投票を取り入れた学長選挙についてのアンケートをとる。
▽八月十四日　学長選挙に関するアンケート発送
▽八月三十一日　アンケート締切
▽九月七日　同集計結果公表。
発送数　二三、七八三
投票数　七、〇二〇
投票率　二九・五%
賛成　五、九二一(八四・五%)
反対　八七五(二・五%)
無効　二一四(三・〇%)
(反対票が全在籍学生の過半数に達した時は従来の規定で行なう)
学長選挙管理委員会から「学長選挙の日程について」等公示。
九月九日　学長候補者選考委員会
九月十日　学長候補者公示
九月十二日―二十一日　学生の除斥投票期間(郵送による投票)
(以下除斥投票により二名以上の失格者がなかった場合)
九月二十五日　最終の学長候補者公示
九月二十七日　学長選挙会
▽九月十日　学長候補者公示
明石三郎(あかしさぶろう)
大正四年一月一日生
〈学歴〉
昭一六　東北帝国大学法文学部法科卒業
〈職歴〉
昭一八　台北帝国大学講師
二二　関西大学教授(専門部)
二三　同助教授(新制法学部)
二四　同教授
法学部長、大学院法学研究科長
学長事務代行などを歴任。
〈研究分野〉　法学博士
民法学(債権法)
鋳方良亮(いかたさだあき)
明治三九年一二月二〇日生
〈学歴〉
昭七　京都帝国大学経済学部卒業
七―一〇　東京帝国大学経済学部大学院在学
一〇―一四　京都帝国大学文学部史学科大学院在学
〈職歴〉
昭二二　関西大学講師(専門部)
二三　同教授
二四　同教授(新制経済学部)
経済学部長、大学院経済学研究科幹事、同科長、就職部長等歴任
〈研究分野〉
経済史(日本古代農業史)農学博士
広瀬指三(ひろせさすぞう)
明治四四年九月二九日生
〈学歴〉
昭一一　関西大学法文学部英文科卒業
一一―一四　同大学院在学
〈職歴〉
昭一二　関西大学講師
一五　同助教授(予科)
一七　同教授
二三　同教授(新制文学部)
文学部長、教務部長、大学院文学研究科長、図書館長、学長代行などを歴任。
〈研究分野〉
英文学(中世英文学)

教職員の意思調整の段階において、第一次答申の大綱にのっとって、大学改革を実施することにはだいたい賛成であり、かつ大学改革は、学生のためにも可能なところからできるだけ早く実行に移すべきであるという考え方と、他方この答申は、理念的に根本的にさらに検討すべきであるという考え方とがあり、答申全体の調整をはかるにはさらに時日を要するものと考えます。また現学長代行の任期は本年九月三十日に終ることになっている事情もあり、さしあたり次期学長選挙においては新しく学生諸君の参加を求め、別途これを実施することとし、大学改革は、新たに選ばれた学長のもとで徹底的に検討を進め、これを実現すべきであると考えます。

〈次期学長選挙実施要綱〉
一、学長は、次の手続による選挙の結果にもとづいて、理事会がこれを任命する。
二、学長の被選挙権を有する者は本学の専任教授とする。学長の任期は、任免規程によるが(三年)、その専任教授としての在任期限を越えることを得ない。
三、学長候補者選出の必要が生じた場合、各学部長は選挙管理委員会を構成する。委員長は互選とする。
四、選挙管理委員長は、各学部から教育職員おのおの十名、ならびに大学事務職員から十名の学長候補者選考委員の選出を求める。なお選考委員選出の被選挙権、選挙権は、教育職員および大学事務職員の全員にある。
五、学長候補者選考委員会は、学長候補者三名を選出する。その選出は、投票により二名連記とし、上位三名を学長候補者とする。
六、前項によって選ばれた三名の学長候補者について、選挙管理委員会は、全学に対して公示を行なう。公示内容は次のとおりとする。(一)氏名、(二)生年月日、(三)履歴(学歴、職歴、研究分野)
七、この三名の学長候補者について、全在籍学生は除斥投票を行なう。この場合、昭和四十五年九月一日現在の全在籍学生の三分の一以上の者によって除斥された候補者は除かれる。二名以上の候補者が失格した時は、選考委員会は再度学長候補者を補充選考する。
八、以上の手続を経た上での学長候補者の中から、専任の全教育職員によって最終的に学長を選出する。
九、この最終学長候補者を理事会に報告する。
(「全学学生諸君へ」から抜粋)

縄文遺跡群発見

十月に　発掘調査団派遣

松原・全・下ダム調査団

第四次下窯・松原ダム総合学術調査は、七月二十七日から八月二日まで、教授、助教授など三十五名が参加して行なわれ、四年目という経験に助けられ、問題の相互関連が容易に把握されるなど総合研究の真価が発揮できた調査となった。

八都市にわたって行なわれた調査では、考古学部門が、水没期を間近かにひきえた松原ダム地域内で縄文遺跡を発見した他、法学部門は町村財政面からダム建設の影響を分析し訴訟内容を整理し、経済部門は人口移動から過疎問題を研究した。また社会学部門は、一応成功したといわれる蓬来団地の集団移転の実態を面接調査を通じて詳細に究明し、租税関係では国税当局の協力を得て、補償と税金の問題に取り組み、工学部門では電力供給の安定性、ダム管理と警報系統の信頼性等を分析。労働部門は未開拓な分野である建設請負契約の実態を究明。またダム完成後の労働力の流動に着実な分析を加え、生物部門は貯水されている下窯ダムを中心に水温・水質・生物の種獲分類、歴史部門では水没地域内の阿弥陀堂から慶長期の仏像を発見する等、多彩な成果を上げた。

特に考古学の網干善教助教授が土器の破片やヤジリをみつけた縄文遺跡群は、これまでこの地方には遺跡はないとされていたところで調査団は「蜂の巣遺跡」と名付けた。

なお同調査団は十月初旬に、末永雅雄名誉教授を顧問に総員十一名の特別調査団を編成して蜂の巣遺跡の発掘調査を行なうことになった。調査要項は次のとおり。

▽調査目的　縄文遺跡の発掘調査
▽日時　十月一日―十月十五日(一日大阪出発、二日から現地作業開始、期間は状況ににより短縮)
▽場所　松原ダム水没地域内(熊本県阿蘇郡小国町浅瀬川床および大分県日田郡大山町貫見川床の予定)
▽編成　末永名誉教授(顧問)、桜田法教授(団長)他総員十一名(現地発掘協力員一日約二十名の参加を予定)

一千五百名が出席

地方父兄懇談会終わる

関西大学、教育後援会共催、昭和四十五年度地方父兄懇談会は七月四日の津市津西工会議所から八月二十三日の豊岡市但馬労働会館まで十二会場で順次日程通り終了した。全出席父兄数は約一、五〇〇名を数え、どの会場も終始熱っぽいふん囲気につつまれて討論が行なわれ、子弟を勉学させてはいるが遠く離れているために交流が余くとだえがちな大学と父兄にとって、この開催は相互のパイプ役として実に意義深い成果をおさめたといえる。

大学からは久井理事長、広瀬学長代行、各学部長代行及び代理、各学部事務長、就職部関係者らが出席した。父兄は大学に対して非常な関心を持って、新聞や教育後援会発行の会報その他で、大学問題に関しては特によく勉強しており、大学からの出席者にしばしば手厳しい質問が浴びせられた。

会の話題は昨年来の紛争とその処理に関する問題、及び改革に関する問題に集中した。

最近大学のあり方が地域社会との関係においてもいろいろ問われているおり、本学では吹田市教育委員会、吹田市各地区公民館主催の「吹田市公民館講座―両親教育講座」に鈴木祥蔵文学部教授ら十名が講師として派遣され、その成果が期待されている。

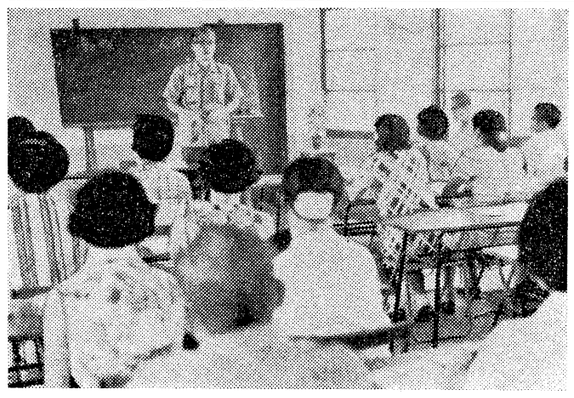
この講座は吹田市九地区公民館が共通テーマで実施されるもので、今回は両親教育講座と題して開講されている。

吹田市教育委員会の昭和四十五年度の社会教育重点目標の一つに「青少年健全育成」が掲げられており、今回の趣旨は両親教育の一環として父母の家庭内外における子供に対する生活態度並びに子供への対処のしかたなど、講座を通じて理解と認識を深めることにより、青少年健全育成の促進に資することにもとづいている。期間は八月二十日から十二月十日まで、合計四十五回開講され、時間は各講座とも午後一時半から三時半までの二時間。受講料は無料。定員は各館四十名、受付先・小・中・高校生をもつ父母を対象としている。

本学では吹田市教育委員会より講師派遣の依頼があったので、かねがね大学の社会的使命の一端として大学が積極的にその真の姿を社会に明示すること、つまり市民一般の高揚と大学の開放を図ることは大学をひろく社会に広潤するのに効果があると思われたので、この申し入れに応じた。

講師はすべて関大から、鈴木祥蔵、川口勇、村尾能成、海老原治善文学部教授、石島洋介関西大学幼稚園長(文学部助教授)、藤井稔、中島巌、小川正、宗孝文文学部助教授及び田中欣和文学部専任講師の十名。

各講座は「幼児の発達と教育」「幼児教育と親子関係」「幼児の知能とその教育」「幼児のしつけと家庭教育」「幼児の知能の発達とその教育」「家庭学習と生活設計」「青年初期のむづかしい諸問題」「中・高校生をもつ親のために」「親と子の対話のすすめ」「思春期の子どもとその心理」「進学と職業の諸問題」などのテーマで講義されている。


吹田市公民館講座に出講した鈴木教授

鈴木教授らを派遣

吹田市の両親教育講座

会と催

▽関西大学経済人クラブ第26回例会　九月十八日午後五時半から新大阪ホテルで開催
▽昭和45年度校友総会　九月二十七日午後十一時受付　太閤園で開催
▽和泉支部総会　十月十七日午後三時から泉和泉府中駅前住友銀行会議室で開催

就職率例年並みに

企業規模別には好調示す

夏期休暇が終わり、就職戦線も終盤に入ろうとしているが、就職課から発表された資料によると八月末現在の就職率は、六九・五%(一部)、四九・一%(二部)で、ほぼ例年並におちついた。しかし一ヵ月以上早く始まった今年の就職試験は、内容的には巨大企業、大企業への就職決定者多数増と好調を示しており、また求人も二次募集を含め多数あり、これからも順調に伸びるものと思われる。

各学部別の就職率は、法＝七一・二、文＝四一・三、経済＝七三・〇、商＝七八・六、社会＝六七・九、工＝七三・三(いずれも%)で、工学部の機械、機械Ⅱは九〇%近くが決定している。同二部は、法＝五三・八、文＝二〇・〇、経済＝五五・四、商＝五一・三、社会＝二二・二(%)。

また就職決定者二、六二八名の企業規模別人数は、巨大企業＝一、〇四二名、大企業＝九四〇名、中企業＝三六三名、小企業＝三七名、官公庁その他＝二四六名(一部)となっており、好調さを物語っている。

産業別では、電気機械器具製造業の一九四名をはじめに、銀行・信託・金庫・組合他、建設業、化学、薬品工業、機械製造業などは一五〇名以上の就職者がある。

尊の雫

生きることの試練であるかのような暑さ、今年の夏は、それほどの暑さを感じた。その夏が、もうすぎた。九月は、よい時候とはいえないが、日ごとに加わる涼気に、やれやれという気がする▼しかし、去年の今頃は、大学として、やれやれどころではなかった。九月七日に中谷学長の辞任がきまり、同八日付で、暫定的に、明石学長事務代行が選任され、ついで、後任の学長選挙に移ったが、選挙に反対する学生の行動を懸念し予定された選挙期日が二回も延期になり、やむなく郵便での投票で、広瀬学長代行が決ったのは十月七日であった▼もちろんその間、学内情勢は、平穏な状態ではなかった。そうした去年に比べ、大学紛争が平静化した現在、同じ九月に、いま、また学長選挙が行なわれている▼現在の、広瀬学長代行は、中谷前学長の残任期間一年を終え、ちょうど、この九月が改選期である。それにしても、今回の学長選挙は、従来になく、わが関大関係者に強い関心をもたれているのみならず、世間一般からも注視されている。それは、母校にとって、はじめての学生参加による選挙ということで、全学生の三分の一以上が反対した学長候補者は失格になるやり方で多数の学生が、どんな反応を示すか、その動向いかんで、予断を許さないものがあるといえる▼願わくは「多数は賢明なり」という言葉のごとく、学生自身軽々と付和雷同などすることなく、慎重に、良識をもって、除斥投票をしてほしい。また、その後で、最終投票に当たる教職員も、心から母校を思う真情を一票にこめ、最善、最適の人を選んでほしい▼なにしろ、学長は、大学の象徴であり、教学の最高責任者で、学長の人物適否いかんにより、その影響は、わが関大の消長にもつながる。ことに現在、大学問題が一応、落ちつきをとりもどしたとはいえなお、憂慮、懸念すべきものも少なくない。しかも、大学の改革を志向して、ようやく一歩を踏みだした大切な時期である。全学一致、最高の学長の登場を待望したい。

ろんだん

年に一度の定時総会は、校友会の祭典である。校友はこれに参加する権利と義務があるといえよう。事業計画、予算、決算、その他の重要事項の審議が代議員会に委譲されてからの校友総会は、報告事項に対する質疑応答等が行なわれるとしても、会員の親睦を主とし、明るく楽しい会合に変わったのである。

昭和四十二年度、四十三年度の総会はその趣旨にそって、大阪では数少ない庭園美を誇る太閤園で華々しく開催、多大の成果を収めた。

昭和四十四年度の総会も、同じく太閤園で開催の予定で、既に会場の予約もしていたのであるが、六月二十日に勃発した紛争により、母校は開設以来未曾有の事態に直面したため、校友総会も、これを中心に論議せねばならぬことを考慮し、会場を大阪国際貿易センターに変更し、十月十一日に開催した。果たして総会は、母校の紛争問題の経過報告、これに対する質疑応答に終始し、なお紛争の早期解決を要望する決議をなす等、前年度の総会とは全くその趣旨を異にするものであった。その後、幾多の曲折があったが、学園関係者の努力が功を奏し、漸く平常化をみるに至ったことは、我々校友の喜びである。

この間に校友会では、任期満了による代議員、常議員、その他の役員が改選された。九百余名の代議員中、相当多数の新代議員が選ばれ、校友会の執行部である常議員においても、五十名の中、二十五名が新しく選ばれた。そして、この新執行部は、去る五月二十三日の代議員会で審議決定された新予算、事業計画の遂行に取り組んでいるのであるが、来る九月二十七日に開催の校友総会は、一昨年と同じく会場も大阪園で、会員の親睦を主とする会合にしたいものと大いに張切っているのである。

母校は漸く平常化をみるに至ったとはいえ、学園紛争の禍根を断つためには、大学問題の根本的解決をなさねばならない。母校と形影相伴って発展した校友会は、母校の重要な事務の一つである校友会の問題が存在する。殊に財政的な困難は避けられないであろう。

私は、この重大な時期における昭和四十五年度の校友総会には、より多くの校友が参加し、また教職員等学園関係者が多く出席されて、相互の親睦をはかるとともに、母校の発展を共に祈念する意義ある総会たらしめるよう、会員各位の一協力をお願いする次第である。

校友会会長　樫本信雄

関大
関西大学校友会
吹田市山手町3丁目3番35
発行人　神屋敬民蔵
電話大阪(388)1121代表
振替口座大阪55594番

コンタクトレンズ
メガネ
大学堂
京阪京阪ショッピングモール
ミナミ地下センター虹のまち
心斎橋
阪神百貨店
第一生命ビル専門大店

英国サビルロウコールマン社・英国T・B&サンス社日本総代理店
最高のおくりもの
カタノ紳士服地
片野洋服店
大阪市東区北浜三丁目(電停前)
電話 大阪(231)2635・2636
大阪駅前店 第一生命ビル専門大店
電話 大阪(341)0709
カタノ良イ　カタノ凝ラヌ　カタノ崩レヌ　カタノ洋服店

輸送・倉庫の御用命は堅実な
当社まで御一報下さい。
東北小型倉庫・輸送部
責任者　佐藤文一郎　昭37.経卒.
大阪市浪速区桜川1丁目1063番地
大阪　(561)7381

サイフ・カバンの
GET
カタログ進呈
50ケ以上承ります
ゴーキ
ハンドバッグ・サイフ・カバン専門綜合卸
廣島屋本店
本社　大阪市東区博労町1―26
〒541　TEL　大阪(06)261―2431(代)
天満店　大阪市東区京橋1―7　OMM4階
〒540　TEL　大阪(06)943―2421～2
専務取締役　蔵田廣造

配管材料　総合問屋
TRADE MARK SUVERES
指定問屋　東洋バルヴ株式会社
指定代理店　住友金属工業株式会社
株式会社北沢バルブ
特約販売店　日立金属株式会社
代理店　株式会社北斗バルブ製作所
株式会社イズミ製作所
株式会社吉田バルブ製作所
中鳴バルブ工業株式会社
株式会社田渕製作所
佐野鉄工株式会社
東亜樹脂工業株式会社
株式会社寺岡製作所
江守バルブ株式会社
本社・大阪市西区立売堀北通4丁目51番地
電話大阪(06)(532)6321代表　(532)6328(夜間)
出張所・新居浜・鹿島・大分・高岡・福岡・鹿児島

信用と技術を誇る太平住宅
見て、聞いて、そしてお決め下さい
よい建築会社とは？―安心して任せられる会社。
それは完成した建物を見ることです。
しかし、外観だけでなく建てた方に会ってお聞き下さい。そこで納得ゆけばあとは決心ひとつ。
太平住宅は毎日＝100戸近く完成していますから、どこでも見たり、聞いたりすることができます。
建築の総合メーカー太平住宅の組織が資金と技術の面からお手伝いいたします。
■木造から鉄筋建築まで……住宅はもちろん店舗、医院、アパート、事務所など、すべてお引き受けいたします。
■便利な月払い方法も……少ない資金で、早い着工、残りも便利な月払いです。(公庫の併用もできます)
工費(木造)…6,000,000円　延面積…183.82m²　A.I様邸(岐阜県益田郡)
資料請求券　太平住宅　関大
請求券をハガキに貼り住所・氏名・年令・職業を記入の上最寄りの支店・営業所にご連絡下さい。
大阪支店・大阪市西区靱本町(地下鉄本町駅下車東北角)　TEL(443)8821大代表
京都支店・京都市下京区四条通り室町(池ノ坊学園東隣り)　TEL(211)6351　代表
神戸支店・神戸市葺合区御幸通り(国鉄三ノ宮駅浜側)　TEL(23)4661　代表
和歌山支店・和歌山市本町(バス・市電本町4丁目前)　TEL(23)3286　代表
本社・東京都新宿区西新宿(新宿駅南口甲州街道沿)　TEL(343)1111大代表
太平住宅
建設大臣登録(ワ)第2339号　建設大臣免許(1)第472号
全国の主要都市に支店・営業所あり

電子技術で未来をひらく松下通信工業
消えた―押し売りの声！
玄関電話があれば安心……
お部屋の中から、あらかじめ声で確かめられるので、文字通り「門前払い」！　押し売りは電子チャイミーをさけて通りすぎます。
＜特長＞●美しいひびきの電子チャイム音(音量調整は自由自在)
●屋外用子機は耐雨構造。
ナショナル玄関電話《電子チャイミー》
●VL-137(電灯線式)1セット現金正価9,850円　●VL-157(乾電池式)1セット現金正価8,900円
●お問い合わせは…ナショナルインターホーン販売(株)　大阪市北区神明町8
電話(06)364-9141　神戸営業所　神戸市葺合区御幸通2丁目6　電話(078)23-6141
松下通信

北から・南から　各地支部だより

新会長に伏見氏

堺市役所関友会が総会

堺市役所関友会では八月一日から二日にかけて、岐阜市長良川畔「長良館」で定期総会兼旅行親睦会を開催した。

総会は会計報告ならびに監査報告を満一致で承認し、会則の一部改正を行なった。最後に役員を次のとおり改選した。

▽会長・伏見勇（新）▽副会長・佐々木森康（留）菊岡昌道（新）▽幹事長・中村幸夫（留）▽会計幹事・小川耕一（留）▽幹事・西川道彦（新）木村義和（留）中尾庸義（新）播磨一彦（留）三宅正知（新）▽監査・井上良男（留）中谷好雄（新）

総会終了後は鵜飼見物をし、翌日日本ラインを下り、明治村を見学し、帰路についた。

会長に広瀬氏留任

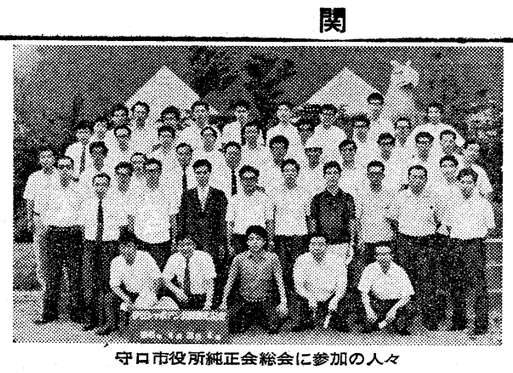
守口市役所純正会総会

守口市役所純正会（会長広瀬浩三氏）は八月二十二日伊豆・修善寺〝菊屋旅館〟で昭和四十五年度総会を開催した。

今回は校友会守口支部長の本多喜慶氏（守口市教育委員）、市議会議員吉川三郎、小浜道夫、今西益一、村田雅幸の四氏、顧問植村久助役の出席もあり、総勢約五十名。総会では役員改選を行ない次のとおり選任した。

（会長）広瀬浩三（副会長）喜多洋三、中西修三（幹事長）阪本進（幹事）橋本隆司、中村一男、奥川晴郎、宮嶋正彦、藤田昭

翌日はバス二台に分乗し、伊豆スカイラインを快適に飛ばし、シャボテン公園や十国峠などを観光した。


守口市役所純正会総会に参加の人々

岡内氏ら重任

高知支部総会

高知支部では八月二十二日午後四時から高知市片町の高知相互銀行片町班において昭和四十五年度総会を開催した。

会は自己紹介で始まり、学歌を合唱したのち岡内支部長から母校の近況報告があった。続いて役員の選挙につうり、支部長に岡内瀞一氏（大十専法）、副支部長に山口春一氏（昭十六大法）、島井範男氏（昭十七専二商）、幹事に松本熙氏（昭二十七学一法）がいずれも重任となった。

最後に祝宴につうり、逍遥歌、応援歌の飛びだす頃ともなれば宴もたけなわ、母校を同じくするものの、きずなはますます相互の近親感を深め、盛会裡に午後七時半散会した。

学長を迎え

香川支部総会

校友会香川支部（有岡定行支部長）は、このほど母校教育後援会地方父兄懇談会が高松市で開かれるのを機として、その前夜祭的意味も兼ねて、八月八日午後七時から高松市内常盤街〝常盤会館〟で支部総会を開催した。

総会には母校から広瀬学長代行・松山工学部長代理、本部から樫本校友会長、千巌組織副部長が出席、日ごろ母校から遠ざかっている地方在住校友にとって関心事である「学園紛争のあらまし」「大学改革の問題」など学園の近況について、ナマの報告を伺い、参加者約四十名、真夏の一夕を〝関大デー〟として楽しく過ごした。

香川支部総会であいさつする樫本会長

芦田氏が時事講演

会長迎え宝塚支部総会

宝塚支部総会は八月二十二日午後六時から、宝塚第一ホテルで開催した。校友会から樫本会長、地元の元老大月伸、藤原竜太先生ら約三十名出席した。

支部長谷口隆佳氏のあいさつ、会計報告があって、樫本会長から昨年以来の母校の学内情況並に本年春の役員改選後の校友会について報告があり、九月二十七日太閤園で開催する校友総会に奮って出席されたいとの要請があった。

毎日新聞大阪本社調査部長芦田定男氏（昭18大政）の時事講演は時間の関係上、開宴中に初められ、アジア東北辺の情勢、特に韓国・北鮮の諸問題について、二時間にわたる情報と分析に一同は緊張して傾聴した。

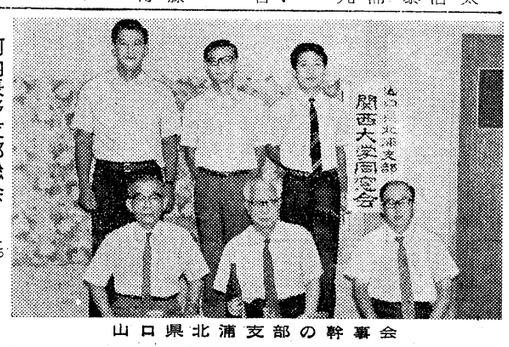
藤原竜太氏は最近めずらしく感銘をうけた旨の謝辞があり、学歌を斉唱して八時半散会した。

出席者＝阿部文雄、芦田定男、跡見保光、旭徹、伊藤六祐、池田治雄、大月伸、大谷寿伯、樫本信雄、神屋敷民蔵、衣川俊雄、小泉博、古座成天、小池正和、阪本治男、島田秀治、鈴木臭征田薩勉、谷口隆佳、田中信男、中川順一、平井美水、藤原竜太、細見正剛、溝口義明、森田義治、山崎禎章、和田一成、渡辺敏泰

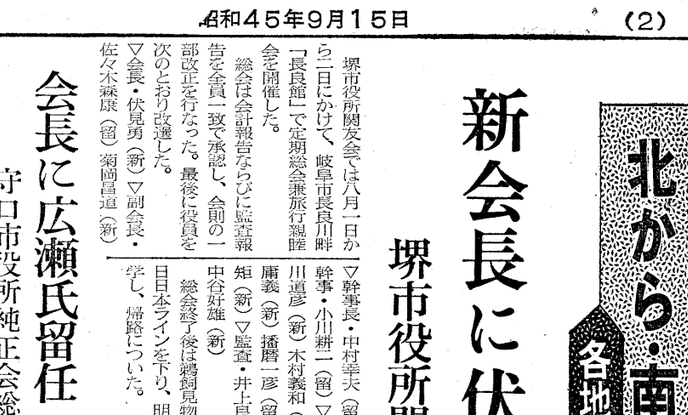
山口県北浦支部幹事会

山口県北浦支部では九月に開催予定の秋季総会に関し、八月六日山口市川島の醉月において幹事会を開いた。当日の出席者は次のとおり。

（支部長）都野守長雄、（顧問）福地寿三、（幹事）松井睦男、藤井一男、中原進、（会長）内田博喜、


山口県北浦支部の幹事会

巡視艇の試乗会を行なった西成支部


昭和初期のころの千里山グラウンド

学園今昔 —3—

体育黄金時代

百花咲き揃う陸上競技

いまの千里山学舎が天下に誇る広大な敷地を擁し、秀麗の自然環境に育くまれるに至った原因の一つは、阪急電鉄の前身新京阪電鉄の一帯の土地を買収することに成功したからである。現在の地価にすれば実に莫大な額である。当時これに関係した人々の先見と決断の功績は偉大である。大学と関大一高、関大付属幼稚園を含めた一連の学園は停留所に近くて交通至便であることが学園発展の一因をなしている。

この電車通学で世にも珍しい「不乗同盟」というのが勃発した。大正十三年の秋だったと記憶する。電車会社が学生定期券にパンチを入れることにしたことからはじまる。そもそも定期券は一往復以上使用するものなのに、復使用するものがあると言うので、これをなんとか禁止する方策だったのである。ところが学生側にも言い分があった。では歩こうと言うことに一決、中山相撲部マネジャーが大学前で監視することになり、大阪駅から吹田駅へ、それから野村別邸下を通って豊津停留所を経て大学へ、二キロの道を隊伍を整えて、徒歩行進だ。空の電車を横目でみながら、歩くのは辛かったが、一ヵ月足らずで電車側も折れ普通定期制度に戻ったが、若い経験の一つだった。

歩くことの辛さは実だつきない。大正の末期には毎日新聞社主催の全国学生相撲大会で竹田選手が個人優勝を遂げ、学生相撲の横綱となった。この時ばかりは学内挙げて熱狂的な応援と喜びだった。予科学生は堺大浜まで応援に出かけ、帰途は大阪まで夜中の行進をやらされた。またその翌日は情の温い血が通っていた。また山時散髪屋だった中村さん達が私設応援団を結成して藤井寺の球場まで出向いて素朴な応援をして学園外の千里山住民との間に親睦と友

先頭に入力車に分乗する豪勢だった。

相撲選手について黄金時代を築いたのは野球部だ。創設時代の野球部長は当時社会学教授だった故宮崎学長だ。平地だというだけのグランドでの練習に金政、森田、陰山、墨田、川村らのメンバーがよく励み、昭和初期東京から下って来た、早、慶、明治の各チームを迎撃して、それぞれ大の力を発揮した。

いま千里山在住の米広医師や当時散髪屋だった中村さん達が私設応援団を結成して藤井寺の球場まで出向いて素朴な応援をして学園外の千里山住民との間に親睦と友情の温い血が通っていた。また山崎学長は野球部育成に情熱を注ぎ、千里山グラウンド・ハウスを新築し選手の合宿所とした。これがため地方の優秀な選手が入学するようになった。

かくて新しいグランドが完成した頃から陸上競技の各種目も百花咲揃う有様で、なかでも三段跳びの大島・長尾選手らがロスアンゼルスの第十四回オリンピックに早大の南部忠平氏に次いで入賞の覇業を遂げた。

しかし、一方では軍国主義への時流があって大正の終りころ軍事教官として初めて横巻、浅陸軍大佐、田中哲少佐、板津直俊大尉の現役三将校が派遣された。横巻大佐は陸大出身で大部聯隊長となり、徴募課長少将となって病死された。

これらの三将校が関大に赴任した当時は軍部に皇道派、統制派の対立があって一部の学者間では天皇機関説を唱えるものもあり、憲法の試験問題に〝天皇の大権〟について述べよと出たのを憶えている。学生間にもようやく軍国主義排撃の風潮が表われ初めていた。教練の時間になると教官への嫌がらせに、わざわざ靴を下駄にはき替えて教練に出るものさえあって、兵士を指揮した将校としては堪えられぬ侮辱だったと思うが、よく堪え、むしろ進んで学生と接触する機会を作って理解を深めつつ、軍教の実を挙げたのもさすがに人柄だったと思われた。

（筆者＝昭四法卒、毎日新聞終身名誉職員・千里山在住・上西嘉太一郎）

人造氷誕生

浪花落穂集

おおさかこぼればなし

吉田三七雄

—その7—

秋風とともに、古いおとなたちの感覚でゆくと、氷というものは季節的には夏のものだということで、もはや季節はずれのものになるのだが、新しい感覚には氷に季節なんていうものはなく、暖房のよくきいた室内では、ウイスキーにもアイス・ウォーターを必要とするし、極端なことをいうと、アイスクリームは冬こそうまいものということになる。

事実、どこの家庭でも電気冷蔵庫の中で、どんどん氷が勝手に生まれてゆく現在、氷に季節感をもつということのほうがおかしいということになるのかも知れない。

ところで、この氷だが、大阪に人造の氷が現われたのは明治二十年（一八八七年）になってからのことで、それまでは氷といえばすべて天然の氷だけだった。

天然氷を季節はずれの夏に使うようになった歴史は古く、記録によると仁徳天皇が難津の宮（たかつのみや）を皇居に定められた頃から、すでに天然氷が使用されていたという。

その当時は、南河内や六甲の池

明治二十年。西区川口町は「居留地（きょりゅうち）」と呼ばれ、外国の貿易商社が軒を並べていたが、その居留地に住んでいた米国人のチャーリーというひとが、氷を造る機械を持ちこんできた。

「氷を造る機械ちゅうもんが出来たそうや！」

「機械で氷を造る？……アホなこと言うな」

「アホなことやない。ほんまに氷が出来るそうやでェ」

「なんぼメテレンの術を使う毛唐も、氷を造るわけにはいかんでェ、だまされたらあかんぞゥ」

「いや、ウソやない、ウソやと思うたらいっぺん見てこい、発明を誤ってくれと頼みこんだ。

ミスター・チャーリーの答えは「ノー」だったが、吉田さんは引きさがらず再三再四頼みこんだ。なにごとも、一押二押三に押しである。流石ミスター・チャーリーも、しまいには根負けして、ついに「イエス」と言ってしまったのである。

かくて、大阪ではじめて日本人の手で人造氷が売り出されるようになったのだが、その頃の製氷機は、ひと月に二万三千斤の氷しか造れない極めて幼稚な機械にしか過ぎなかった。

それでもその製氷高は、毎年北海道の函館から大阪へ買入れる自然氷の全量と同じだったということだから、まさに画期的なものだったに違いないし、天然氷の貴重品的な価値に対して、人造氷は比較にならぬほど低い価格で買えるようになったのだから、これまた社会的貢献度大なるものがあったといえよう。

今から四、五十年ほど前までの大阪では、夏がくると、この氷のかたまりを木の桶（おけ）に入れて、それを頭の上や肩にかつぎ、氷を割り売りするカチワリ屋というのが、町から町を駆（か）けるようにして通り抜けていった。

「さあ、割った割った。カチワリ割った！」

短い絣纏（はんてん）に豆絞りの回りハチマキで、えらく威勢のいい売り声のカチワリ屋は、トビ職の今でいうアルバイトが多かった。だから、中には身体いっぱいに彫ったイレズミを自慢にするものもあり、これが若い女性の一部には粋（いき）な格好にも思われて、カチワリ屋に熱を上げる娘も多かった。

外見だけにひきつけられ、中身の判らぬものに熱を上げたり肩入れした挙句のはて、泣いてもわめいてもあとの祭りとは、今も昔も変りはない。

「ええさかいいうたやおまへんか、ええかっこしいのすかんぴんには惚（ほ）れたらあきまへん」だから、「カッコイイ！」だけではいけないのである。

人 それぞれ

四国経済連専務理事になった 河瀬一義氏

□…四国電力愛媛支店長から常務取締役に就任した河瀬一義（かわせかずよし）氏。先任者の転出に伴い四国経済連合会の専務理事も引き受けることになった。「各県の経済人の意見を十分聞いたうえで、私なりに考えをまとめ方向づけをしたい」というが、本四架橋をはじめとして、四国の後進性脱皮へいろんな問題をかかえている四国経済人の〝まとめ役〟だけにその手腕が期待されている。

□…昭和十二年専門部商業学科を卒業し「地元の会社」ということから伊予鉄道電気（株）に入社。十三年七月臨時召集を受け満州に約三カ年出征の後、四国配電を経て二十六年五月四国電力に入社。以来愛媛支店長となるまで、労務課長、同部長と労務関係の仕事をしてきた。最も苦しかったのが、二十七年から四年半の愛媛支店労務課長時代。ちょうど組合の激しかった時で「いつやめようか」と思っていたそうだ。

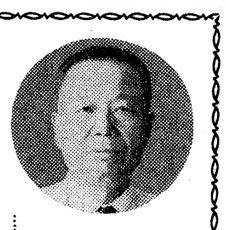
□…在学中のことで忘れることのできない思い出は、当時法科にいた三保敬一氏（現大阪市役所勤務）とそのご両親の恩。除隊後直ちに訪ねて、生きて帰った報告と学生時代にお世話になった礼をいったが、二度目に訪ねた時、ご両親は既に他界されており、「親身のようにお世話してくれた方だけに自分の親を失ったと同じ悲しさと淋しさを感じた」とのこと。クラブは卓球部に籍を置いていた。

□…「誠」を生活信条としている。趣味はゴルフ、健康のためでもあるのでよくやるとのこと。家族は夫人と三人の男子。五十五才。

泉南市長になった 浅羽富造氏

□…〝三万市法〟で今年の七月市になったばかりの泉南。その初代市長になった浅羽富造（あさばとみぞう）氏。「まず市民とのパイプを通すことです。民主市政とは対話が大切。そのためには市政懇談会のようなものをつくり、市を七ブロックに分けて地区代表の意見を聞く他、市役所に公聴係を設置して市民の意見を聞き、要望にすぐ答えられるようにしたい。そして公害や交通事故のない市民参加の都市計画」と抱負を語る。

□…昭和十六年法文学部を卒業後大阪市役所に入り、二十九年間勤務。その間、大阪市職組委員長、地公労委員長、大阪市公聴課長、北花区長、同和対策部長などをつとめ、その行政経験と誠実な勤務ぶりは高く評価されている。中でも組合活動の時大衆と接したのはよい人生勉強になり、立場が異っても誠意を

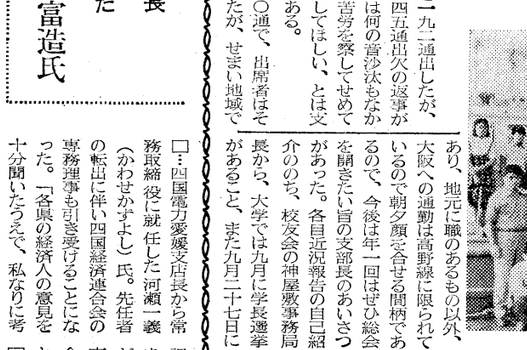


河内長野支部総会 今後は毎年開きたい

大阪のナンバから西海高野線で三十分の河内長野市は、いまや大阪のベッドタウンになりつつある。河内長野支部では、ここ二年支部の会合がとだえていたが、八月三十日午後六時から三日市温泉「油屋」で支部総会を開いた。

総会通知を一九二通出したが、戻りが七通、四五通出欠の返事があり一四〇通は何の音沙汰もなかった。幹事の苦労を察してせめて返事だけは出てほしい、と支部長の述懐である。

出席通知二〇通で、出席者はその半数であったが、せまい地域であり、地元に職のあるもの以外、大阪への通勤は高野線に限られているので朝夕顔を合せる間柄であるので、今後は年一回はぜひ総会を開きたい旨の支部長のあいさつがあった。各自近況報告の自己紹介ののち、校友会の神屋敷事務局長から、大学では九月に学長選挙があること、また九月二十七日に


久々に開かれた河内長野支部総会

法律書を母校に寄贈

山本弘吉氏亡父の貴重な蔵書

校友会代議員本弘吉氏（昭15大商、大阪府理事室参事）は亡父の残した貴重な法律蔵書二百数十冊を母校関大に寄贈した。

氏の厳父山本常石氏は故吉田茂首相と明治39年東大卒の同期で、大審院判事を最後に退官したが、生前は吉田氏とも昵懇であり、明治・大正にかけての日本の法曹界の重鎮であっただけに、その蔵書も判例集などが多く、さる一月九十一才を最後にこの世を去ったのを機に、関西の法曹界に多くの人材を送っている母校に寄付を申出たもので、久井理事長はじめ関係者も感激している。

工学会卒業生委員会が発足

工学部卒業生六千人中における工学会卒業生委員会は内規および役員を次のとおり決定し、工学会常任委員会において承認された。

▽工学会卒業生委員会内規

〈目的〉工学会卒業生委員会は工学会における卒業生の活動を活発にし、かつその運営を円滑にすることを目的とする。

〈構成〉卒業生委員会の構成は委員長、部長および委員で構成され委員長および部長は評議員より選出する。委員長一名、部長三名、委員若干名として総務、組織、情宣の三部を置く。

〈運営〉卒業生委員会の運営は委員長の召集により定例委員会を年一回開催する。また必要に応じ臨時委員会を開くことができる。

〈任期〉四月一日より三月末日までとする。

新役員は次のとおり。

▽委員長・金景勲（電）▽総務部長・中鳴孝志（機）副・武井一夫（電）▽組織部長・重田有三（管）副・名井正明（化）▽情宣部長・松山富男（金）副・浜崎直也（応化）

伝言板

昭和二十年九月旧制法学部法科を卒業した者ですが、入学時（昭和十七年）及び在学中にお世話になった元配属将校陸軍大佐佐藤忠七先生または遺族の方の住所を知りたいと存じます。御存じの方は左記のところへ御連絡下さい。

東大阪市長堂金光教布施教会内　木野本啓三

大島特許事務所
所主　弁理士　大島武夫
弁理士　大島一公
弁理士　辻本一義
大阪市西区江戸堀北通二丁目二十五番地（とみたビル）
電話（四四一）二一〇〇・二三九四・四四三六・二一五〇

堂浦詢甫　畑良行　藤進　八木庸茂　山田清

巡視艇試乗会

西成支部の懇親

八月二十三日、天保山の明治天皇聖蹟碑前に九時に集合したのは定員オーバーの四十五名であった。今回の催しは支部会員と家族の懇親を兼ねたもので、支部長小林正立氏の特別の計らいで海上保安庁巡視艇「たまなみ」で淡路島岩屋までの往復試乗会であり、本部より組織部長金本朝一氏も参加された。

大阪港内外に繋留されている外国船には左程に感じない我々も、その黒味を帯びた海水をみては今更のように公害の実体を見せつけられて目をそむけていたが、副長の懇切な説明や艇長の快活な海のエピソードをきかされている中に、いつのまにか須磨沖に来た。そこには本来の海の色をみて何か救われたような安堵感を乗員の人が感じあっていた。

岩屋海岸の旅館で休憩、昼食をした後、各人思い思いに海水浴に、魚釣り、貝拾いに十二分に楽しみ、三時半帰港の途につき再会を約して別れた。

……会……員……募……集……

公認会計士目曜会案練習会

関西大学公認会計士目曜会案練習会では公認会計士をめざして学習している学生、校友を対象に左記の要項で会員を募集しています

▽開講日　昭和四十五年十月四日～昭和四十六年六月末日までの各日曜日

▽時間　午後一時～四時

▽場所　天六学舎三〇六教室

▽開講内容　試験科目七科目

▽募集人員　五十名

▽会費　四千円

▽講師　会計士補多数

▽受付　天六学舎五階研究室及び第二事務室（昭和四十五年十月中の開講日）

寒川労働コンサルタント 衆議院議員寒川喜一事務所

所長　寒川喜一

事務所　大阪市西区阿波座上通一ノ二七（新松岡ビル三階）
電話（地下鉄3号線本町駅）
大阪（〇六）四一一〇五四（旧信濃橋）
大阪市西区南堀江花通五ノ一二（南西出入口前）
電話（〇六）六六〇六番（代表）
大阪（〇六）五四一一五〇九五番（岡田マンション）

ボンネル®セーター

財産を　つくり、そだて、まもる
これが大和銀行です

総合サービスのできる大和銀行は　財務のデパートとして　幅広く皆さまのお役に立つ銀行です

銀行プラス信託——2倍べんりな
大和銀行

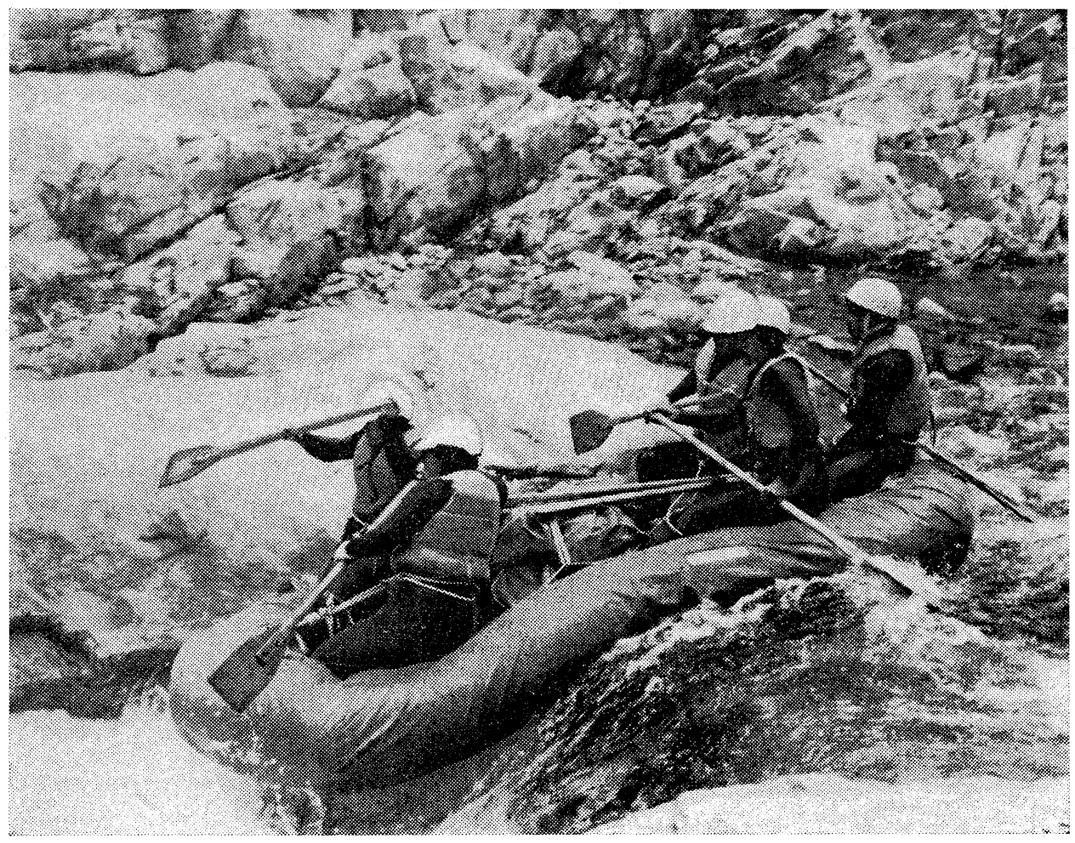
有利なしくみ
〈ダイワ トリプル セット〉
金銭信託——元本保証、もっとも有利な利回り
定期預金——身近なプランに、暮らしのそなえに
普通預金——いつでも使える、ムダがはぶける
●プランにあわせて、ひとつだけでもお選びいただけます。

ランプのない光電スイッチ
マジックアイ
TOYO
東洋電機株式会社
本社　愛知県春日井市味美町2—175 6　電話 <0568> 31—4191（代）　〒486
東京営業所　東京都港区新橋1—17（内田ビル）　電話 <03> 503—4481（代）　〒105
名古屋営業所　名古屋市中村区花車町2—24（花車ビル9階）　電話 <052> 582—2016（代）　〒450
大阪営業所　大阪市北区太融寺町33（大阪合同ビル8階）　電話 <06> 312—8448（代）　〒530

探検部 夏休みの報告

雪渓と絶壁の威圧

上下廊下 完全航行に成功



黒部川の急流を下るゴムボート

黒部川航行合宿

現在、黒部は黒四ダムが出来て以来バスに乗ってだれもが行ける観光地となった。そして今夏には立山トンネルの完成がこれをもっと容易にさせた。しかし黒部川といえば、その自然の雄大さはまだまだ人間を寄せつけない秘境である。

わが部は三年前黒部川の上ノ廊下をゴムボートで下ることに成功している。そしてこの力をもとに今夏は上、下・廊下の完全航行に夢を馳せた。そしてその日のために毎日のボート技術、体力の向上ならびに黒部川に関する知識の網羅に努力し、この夏にその夢を実らせるチャンスを待った。その間黒部川への執着心はいよいよ増して行った。七月二十八日、この日はわれわれの念願の出発の日であった。と同時に、これも何かの因縁であろうか、黒部の父と言われた冠松太郎氏の長い旅立ちの日でもあった。

ボート出発地点立石までの入山は、雲一つない快晴。全員足には地下足袋、背にキスリング、そしてオールという、他の登山者の人目を盗って行く。道々には昨年の豪雨禍のつめ跡が歴然と残り、自然の猛威には計り知れないものがあるとつくづく感じられた。

三十一日はぐずついた天気だった。水温は十二度、しかしウェットスーツ着用のため余り気にならない。ボートに空気を入れ、ボート保護のため、われわれ特製の帆布を被せ十字にセーフティーザイルを張る。隊員はウェットスーツの上にライフジャケット、頭にはヘルメットと身を固め、立石を出発。時に九時十分であった。

流れは全体的に浅い瀬の連続で快適な感じである。左にまだ雪渓が残っている全作谷、その上方に薬師岳の雄々しき姿を雲間にみながら、ボートは上ノ黒ビンガと言われる両岸数百尺にも達する絶壁のところに入る。川幅も狭く、水流も早い。しかし大きな滝がないのでボートは木ノ葉のように波に揺れながらも順調に進む。他の川のように瀞がまったくないので気を休める時がない。またボートに満載になった水をかい出すのも一苦労だ。こうして川との戦いは続けられたが、そこでわれわれは想像もしなかったことが起きた。帆布の底部センターが破れてしまった。応急修理はしたものの無駄骨であった。

次の日の広河原より下流は前日にくらべて滝が多くなりボートを流したり、かついだりの連続であった。特に廊下沢の下流一時程下るのに四時間も費し、上の黒ビンガと並び称されている下の黒ビンガの景観は航行中あまり見ることができなかったが、その高さは約三百―四百尺に達し、黒い岩がいたるところでオーバーハングしており、われわれを威圧するかのように直立していた。

八月四日からは下ノ廊下の航行に入った。下ノ廊下は川幅、谷の両岸に垂直に切り立った壁の角度が重要な企業経営上の課題となる。

他方、企業危険や家計危険の保険を引き受ける保険企業もそれ自体一個の企業なのであるから、やはり企業危険処理問題が起こり、それが企業存亡の重要問題となる。それがため、保険企業は危険の限定（約款の作成）、アンダーライティング（危険の選択と引受）、レーティング（保険料率の算定と決定）、クレーム・セットルメント（保険事故の調査と保険金の支払）、保有と再保険（保険者責任の分散と他の保険企業への転嫁）、投資（保険者責任を履行するために保有されている莫大な責任準備金の有利な運用）などの業務が必要となる。

かくて、保険の研究は一方において保険者サイドの研究が必要となり、さらに両者の中間に立ち、あるべき姿を追究する規範的な、ないし保険政策的な研究も必要となる。しかし、保険は単に生命保険や損害保険などの私保険だけでなく、多くの公保険の分野を有している。

公保険には産業保険（経済政策保険）と社会保険とがある。前者は企業危険、物的危険を、後者は家計危険、人的危険を対象としており、その組織、技術制度は余く複雑多岐にわたっている。しかも社会的には私保険は保険取引という形で、公保険は主として保険関係として把握されし、それぞれ究明しなければならない問題や内容はとうていほかの学問とは比較にならぬ複雑性や難解性を有している。

保険論は経済学のまま子であるとか、保険論は商学のハンのハンであるとかいわれるのは実は保険理論の複雑性、難解性、特殊性に由来するのである。

保険論の専門家でさえ、一体この世の中にどんな保険がいくつあるのか正確に把握できないほど、保険はあらゆる経済活動のなかに制度化されているのである。それがゆえ、保険制度全体を研究の対象とすることは不可能である。かくて、保険学徒は一方において個々の保険現象の属性を捨象して、保険の一般原則を主として経済理論によって解明していこうとする傾向を持ち、他方において特定の保険種目（たとえば海上保険）の取引関係に着目し、それを制度論的法学的あるいは商業的に研究し、それを通じて保険現象を解明していこうとする傾向を持つ。

生命保険や社会保険に興味を持つ学徒は後者の方法を採用しているようである。私も損害保険に興味を持つゆえ、後者のアプローチを採用している。ところが、損害保険と一口にいっても三十種類に上る保険を包括しており、その一つ一つがそれぞれ複雑な内容を持つゆえ、その全部をとりあげることは不可能である。そこで、私は損害保険中の動産的保険の部分に限定して研究を進めている。それは海上保険、自動車保険、航空保険である。つまり陸海空の交通に関する物的、人的な危険に興味を持ちその保険を研究しているのである。

あらゆる保険の中で最も古いものは海上保険で、これ以外の他の保険は大なり小なり海上保険の応用であると われている。海上保険は貿易や海運などの海事企業の物的危険を担保する保険で、これを欠いて貿易や海運の合理的経営はできない。貨物の運送危険、船舶の運航危険がいかに大であるかは各種の海難の発生態様を考えれば何人も理解しうるところであろう。

荷主や船主が保険業者と保険取引する場合、通常保険証券が発行される。この保険証券には虫めがねで見なければならないほど小さな活字で印刷された難解な約款が書き込まれている。専門的知識がなければ、とうていの ことやら、さっぱり判らない内容である。

そのうちで、最も重要なものが、危険負担と損害填補に関するものである。つまり、保険はいかなる保険を負担し、その結果生じたいかなる損害を填補するのかという個所である。前者は抽象的観念的給付であり、将来の給付であるに対し、後者は発行される。この保険証券には虫めがねで見なければならない他の学問とは比較にならぬ複雑性や難解性を有している。

保険論は経済学のまま子であるとか、保険論は商学のハンのハンであるとかいわれるのは実は保険理論の複雑性、難解性、特殊性に由来するのである。

保険論の専門家でさえ、一体この世の中にどんな保険がいくつあるのか正確に把握できないほど、保険はあらゆる経済活動のなかに制度化されているのである。それがゆえ、保険制度全体を研究の対象とすることは不可能である。かくて、保険学徒は一方において個々の保険現象の属性を捨象して、保険の一般原則を主として経済理論によって解明していこうとする傾向を持ち、他方において特定の保険種目（たとえば海上保険）の取引関係に着目し、それを制度論的法学的あるいは商業的に研究し、それを通じて保険現象を解明していこうとする傾向を持つ。

生命保険や社会保険に興味を持つ学徒は後者の方法を採用しむと好まざるとにかかわらず、英国の法律、慣習を知悉しておらねばならないことになる。

一般に保険契約の内容となる約款はきわめて複雑かつ難解であるとされている。その最たるものが海上保険約款である。日本語で書かれた約款でさえ難解であるにもかかわらず、悪文といわれ常に攻撃の対象となっている英語で書かれた約款が、気違い文書とされるのも故なしとはしない。このような約款を日常取引に使用するのであるから、被保険者側と保険者側の双方の解釈上の相違を生むことになり、保険者でさえ、その正確な解釈が困難となることがある。約款の解釈や適用は単に保険証券の文言だけでなく、準拠される制定法、判例、慣習、慣行、学説をも含めてなされねばならない。それがゆえ、海上保険の研究は十六世紀から今日にいたるまで取引約款について法学や商学の立場からなされてきた。かってはイタリア、フランス、ドイツが中心であったが、現在では英米が中心となっている。

日本の海上保険理論は大体において骨をドイツ、肉を英国から導入したものではあるが、現在、世界最高の水準にある。最近の動向を眺めると、被保険利益や因果関係の理論的研究に集中しているように見えるが、他方においては保険証券の歴史的研究や、海上保険契約と隣接する契約の接点分析を行なおうとする傾向もある。

私自身は後者の研究に興味を持ち、主として船荷証券と海上保険証券の相関関係の分析を進めている。船荷証券に表徴される海上物品運送契約はヘーグ規則やそれを国内法化した国際海上物品運送法で規制しなければならぬほど、船主の免責事由でうずまっていた。航海過失は免責、商事過失は有責というルールが敗かれてからも、船荷証券は免責約款で埋まり、海上運送中に滅失、損傷を受けた貨物の荷主は船主に対して クレームできないことが多い。そこで、荷主は海上保険に何でもかんでもクレームしようとする。荷主に保険金を支払った保険者は可能なかぎり船主に対して代位権を行使しようとする。

この種の問題を系統的に研究し、利害関係者の利害を調整し、あるべき姿を究明しようとすることは、貿易、海運、保険の発達にとってきわめて有益なことである。

ところで、最近やかましくなってきた公害問題は保険業界でもその対応策を検討中であり、学者の中にもこの保険化を検討している者もある。保険論にあまり興味を示さない学生諸君でも、この問題に多大の関心を寄せ、夏季の合宿ゼミナールで議論するため一週間信州へ引っ張り出された。公害の保険化というテーマは実にむつかしいものではあるが、地震の保険化に成功している昨今、それは不可能ではない。

自動車の惹起する公害は大気汚濁ということになるが、交通事故も多分に公害という性格を持つ。交通事故に関しては自動車保険がもはや常識になっているが、保険理論からするアプローチは必ずしも十分でない。制度上の問題、取引約款上の問題、経営上の問題等々どれをとってもやっかいな問題ばかりである。強制保険、任意保険の二本建になっている日本の自動車保険は制度上欧米のものと比較して少しも劣っていない。しかし、その利用や運用はかなりまずく、至るところで無用のトラブルを起こしている。保険思想が低く保険事業の歴史の新しいわが国ではあるが、望ましい方向にリードしていく責任が保険学徒に課せられている。

自動車のみならず、航空機も船舶もまた公害の元兇である。航空機の問題はさておき、船舶についていえば、海上航行中の海難の発生態様を考えれば何人も理解しうるところであろう。

荷主や船主が保険業者と保険取引する場合、通常保険証券が発行される。この保険証券には虫めがねで見なければならない他の学問とは比較にならぬ複雑性や難解性を有している。

保険論は経済学のまま子であるとか、保険論は商学のハンのハンであるとかいわれるのは実は保険理論の複雑性、難解性、特殊性に由来するのである。

保険論の専門家でさえ、一体この世の中にどんな保険がいくつあるのか正確に把握できないほど、保険はあらゆる経済活動のなかに制度化されているのである。それがゆえ、保険制度全体を研究の対象とすることは不可能である。かくて、保険学徒は一方において個々の保険現象の属性を捨象して、保険の一般原則を主として経済理論によって解明していこうとする傾向を持ち、他方において特定の保険種目（たとえば海上保険）の取引関係に着目し、それを制度論的法学的あるいは商業的に研究し、それを通じて保険現象を解明していこうとする傾向を持つ。

生命保険や社会保険に興味を持つ学徒は後者の方法を採用し

書斎の窓 ―⑧―

保険学徒のなげき

公害の保険化にも論議

亀井利明

危険あるところに保険ありとは古くからいわれてきたことであるが、正にそのとおりである。技術の発達、経済の成長は常に新しい危険を発生せしめている。自己責任の原則と私有財産制を前提とするかぎり、すべての危険は原則として個人の負担である。したがって、企業も家計も既存の危険はもちろん、新たに登場する危険に対して何らかの対策を講じなければならない。かかる対策にマネジメントの思考を導入し、体系化したのが、アメリカのリスク・マネジメントである。それは主として企業における危険の科学的管理を意味し、大企業においては専任のリスク・マネジャーをおき、中小企業では独立のリスク・マネジャーをコンサルタントとして使用しているのが実状である。リスク・マネジメントの中心は当然のことながら、危険の費用化、危険の転嫁ということになり、それに最も適しているのが保険である。したがって企業危険をいかに保険化するかが重要な企業経営上の課題となる。

他方、企業危険や家計危険の保険を引き受ける保険企業もそれ自体一個の企業なのであるから、やはり企業危険処理問題が起こり、それが企業存亡の重要問題となる。それがため、保険企業は危険の限定（約款の作成）、アンダーライティング（危険の選択と引受）、レーティング（保険料率の算定と決定）、クレーム・セットルメント（保険事故の調査と保険金の支払）、保有と再保険（保険者責任の分散と他の保険企業への転嫁）、投資（保険者責任を履行するために保有されている莫大な責任準備金の有利な運用）などの業務が必要となる。

かくて、保険の研究は一方において保険者サイドの研究が必要となり、さらに両者の中間に立ち、あるべき姿を追究する規範的な、ないし保険政策的な研究も必要となる。しかし、保険は単に生命保険や損害保険などの私保険だけでなく、多くの公保険の分野を有している。

公保険には産業保険（経済政策保険）と社会保険とがある。前者は企業危険、物的危険を、後者は家計危険、人的危険を対象としており、その組織、技術制度は余く複雑多岐にわたっている。しかも社会的には私保険は保険取引という形で、公保険は主として保険関係として把握されし、それぞれ究明しなければならない問題や内容はとうていほかの学問とは比較にならぬ複雑性や難解性を有している。

保険論は経済学のまま子であるとか、保険論は商学のハンのハンであるとかいわれるのは実は保険理論の複雑性、難解性、特殊性に由来するのである。

保険論の専門家でさえ、一体この世の中にどんな保険がいくつあるのか正確に把握できないほど、保険はあらゆる経済活動のなかに制度化されているのである。それがゆえ、保険制度全体を研究の対象とすることは不可能である。かくて、保険学徒は一方において個々の保険現象の属性を捨象して、保険の一般原則を主として経済理論によって解明していこうとする傾向を持ち、他方において特定の保険種目（たとえば海上保険）の取引関係に着目し、それを制度論的法学的あるいは商業的に研究し、それを通じて保険現象を解明していこうとする傾向を持つ。

生命保険や社会保険に興味を持つ学徒は後者の方法を採用し

暑さとたたかう

屋久島トレーニング合宿

暑さの中でトレーニングする部員

（水野善行・工学部三回生）

私達は昨年以来アマゾニア上流域踏査活動を目指し、今春の大韓民国単独徒歩縦走トレーニング及びシンポジウム合宿などを行なってきました。そして今回アマゾンにおける風土の特異性などを考えた場合、暑さの下で装備、食料等を試みる必要性を感じました。七月十日12・38分発広海に乗り込み屋久島ベースキャンプ地である永田に向かった。あいにくの雨でしたが疲れていたためその夜はぐっすり眠れた。翌十二日は装備点検をした後は出発を待つのみとなった。

七月十三日永田に別れをつげ出発。最初のルートである永田岳で九州二番目の山、最初の日でもありピッチはあがらず、激しい暑さに苦しめられ、疲労。昼食の後蝶屋久島ベースキャンプ地に向かった。

ようやくたどりつき、ベースキャンプ地に着いたのは夕方であった。食事は九時までが乾燥野菜、新蛋白食品（人工肉）、かんずめ等で一日のカロリーは二八〇〇カロリー。眠るのはハンモックそれに蚊帳にオーバモックをつって眠る。これは快適であった。なによりも「蚊」が来なかったことがいい。しかしハンモックに入ってシュラフにうまく入るのに十分も十五分もかかり、いっぺんに暑くなり眠気がさめてしまう。屋久島は下がじめじめしており、それに毎日十時間は歩き、水不足と疲労と睡眠不足も加わり各人苦しかったに違いない。しかし永田岳からの下界の美しさ、九州最高峰の宮ノ浦の雄大さ、苦しみぬいた太忠岳などで忘れられない事柄も多い。

辛いケガ人もなく来年のことを考えて持っていった医療品もすっかり残った。最終日、一日早く下山すると言った時始めて嬉しそうな笑いをみせた一年の顔が忘れられない合宿であった。

蝶の多種の蝶々がいる。食事は九

交通事故、公害が増加

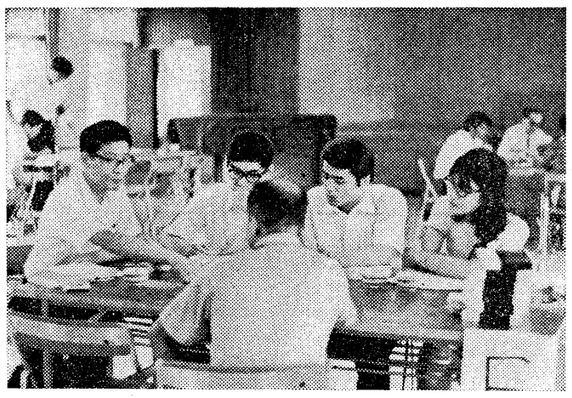
岐阜県下で 夏期移動法律相談

我が法律相談所は、規約第2条に"我々社会に於ける法律紛争の実体を把握し、これに法理論の適用を試みる事に依って法学学習の成果を挙げ、併せて社会発展に寄与し……"と定めこの趣旨のもとに毎週土曜日に天六で定期無料法律相談を開設し、法理論の実践化及び法律問題に悩んでいる人々の一助なりとも思い奉仕を続けています。これによって我々は大学で学んだ法律を実社会に適用することにより、法律を生きた法として把握しようとするものであります。そこで定期法律相談のほか夏期移動法律相談を開設し、法律問題で悩んでいる比較的法律の浸透の少ない地域の人々のために少しでもお役に立ち、また法律の救済を望み得ないという状態を少しでもなくしたいと念願し、我々の力を結集するものでもあります。以上の趣旨より夏期移動法律相談は十年程前より続けており、昨年の岡山県下に続き今年は岐阜県下で以下の要領で開催致しました。

八月二十四日　岐阜羽島市市役所

八月二十五日　各務原市社会福祉センター

八月二十六日　岐阜市市役所　午前十時より午後四時



時代を反映して交通事故、公害問題が増加した移動法律相談

原田先生を偲ぶ

山崎敬義

護士としての原田先生の令名は幼い頃から聞いており、初めてお目にかかったのは大正十二年の四月である。当時母校関大から岩崎前学長先生と共に第一回の海外留学生として米国に渡り、新進の法学者として帰朝、商行為法の講座を担当せられ、私等学部第一回生はその講義を承った。著書は未だ出されていなかったが、流暢な講述は三十代の先生の面影と共に今なお私の脳裡に残っている。

昭和十年頃であった。先生は一時政界に希望を持たれ県会に出馬を考えられ、その地盤固めとして校友の結束機関として兵庫県関大校友会を結成する準備を進められたが、政界は先生のご性格に合わないと考え断念せられたが、校友会は現在、多少とも母校のお世話をさせて頂いているのは先生のご庇護によるものと感謝している。

先生の法律事務所から母校関係では長嶋隆成弁護士（学部大15年卒）がおり、同君の結婚は先生ご夫妻のお世話になり、同君の長男夫婦も先生のご媒酌である。弁護士赤松進君（昭31、学2法）も第十七期修習生として先生の事務所で研修した。

先生は健康に恵まれ八十二歳の天寿を完うし家庭的にもお幸せであった。奥様滴佐さんとの間に二男一女、長男弘さんは神戸船舶株式会社の専務取締役、二男昭さんは現在、関大大学院博士課程（昭39、院博卒）に学ぶ。先生との共同事務所、作川家へ婚嫁せられた長女シマ子さんの方へは先生の曾孫が三人おられる。

先生の晩年の偉業は山陽特殊製鋼株式会社の管財人としてのご手腕である。数十億の負債の会社を更生させたご苦労は、あるいは先生の余命を縮めたのかとご同情堪えない。

先生の亡くなられる二十日程前、私の事務所へ来られお目に掛ったときは極めてお元気でお話したのに、その後訃報に驚いた次第である。先生の告別式は七月三十一日神戸市葺合区生田町一丁目「東極楽寺」で盛大に執行せられ、母校からは久弁理事長、中谷前学長、樫本校友会長等が参列焼香せられた。

先生は生前のご功績に対し従五位に叙せられ勲四等瑞宝章を贈られた。

ここに「鹿鳴院雲海法将居士」のご冥福を衷心よりお祈りするものである。

〈大14大法・校友会参与・神戸支部長・公証人〉

株式会社 トーヨー レイバー・コンサルタント
当社は三井鉱山株式会社の関係会社です
労働関係の一切の御相談に応じます
常務取締役 大阪支社長 藤田猛
大阪本社 大阪市北区中之島三の五（三井ビル） 電話 四四一一〇六九（直通）
本社 東京都中央区日本橋室町二の一の一（三井ビル）
名古屋支社 名古屋市中区栄四丁目三番二六号（昭和ビル）

特許・商標・出願全般・審判事件
日・英・米・独・仏・伊・スイス・ベルギー（中近東・東南アジア諸国・韓国等取扱）
鈴木国際特許事務所
所長・弁理士 鈴木武夫（昭和五年 大法卒）
大阪市西区西長堀南通一丁目九番地（四ツ橋交叉点南50m東側地下鉄四ツ橋線四ツ橋駅中央出入口隣）
電話 大阪 〇六（五三一〇）七四三一～七四三四 七四三五（所長室）

ダイヤモンドホーローバス製造元
各種大型プレス・製缶事業
赤井物産株式会社
高級染料及び中間物製造販売元
神戸化学工業株式会社
取締役社長 赤井常隆
本社 大阪市西区北堀江上通一丁目十番地 電話大阪(五三八)代表三六二一～五番
工場 ◎静岡・西宮・神戸 ◎大阪興業株式会社 ◎新東生コンクリート工業株式会社

ナショナル専売店
家庭電化器具
テレビ無線機器
冷暖房機器
電気工事
有限会社 房本電気商会
代表 房本仙太郎（昭和18年専二商卒）
大阪市阿倍野区阿倍野筋3丁目8―12
TEL (621) 2662～3・7226

電話設備工事
各種電話交換機設備・拡声表示装置
電子計算機・テレタイプ等の販売
富士通株式会社特約店
日新電設株式会社
取締役社長 高橋正夫
大阪市東区谷町4丁目2番地
TEL (943) 1561番（代表）
営業所 京都・堺・彦根

商業手形割引
不動産担保貸付
株式会社 日証
大阪市南区東清水町十二番地
TEL 代表(271) 5500
営業部 北・尼崎
支社 東京・名古屋・京都・神戸

映像による戦争体験の伝承

映画人集団"核"が会員募る

一悲惨で非人道的な戦争が二十五年間を経た今日、もはや甘いなつかしさだけを前面に出して忘却されようとしている。今こそ生き残った者は戦争体験を伝える義務がある」

これを映像で表現し伝承しようとそれぞれのキャリアを持って集まった七人の集団―映画人集団"核"―がこの作品化「私たちと〈戦争〉（仮題）」に取り組んでいる。その代表が楠木徳男氏（昭二七学二経）である。氏は「巨船ネスサブリン」（岩波映画・一九六一作品・演出）を第一回監督し、数々の賞を受け、現在フリーで活躍中。

今回の制作費は「一人一人の心の奥底に沈んでいる戦争の原質を浮上させる」ためにほとんどをカンパでまかなうと言う。制作は今年八月六日の広島の原爆記念日から始まっており、左記のとおり制作協力会員を募っている。

▽制作協力会費は個人で三百円、二名（家族会費）で五百円、いずれもこの会費で試写並びに映写会で観ることができる。

▽制作（連絡）事務所
東京都練馬区上石神井一ノ三〇一
楠木方　電話〇三―九二〇―六四六一　映画人集団"核"

青い目の非行少年見てある記

盗んだ車で〝悪の道〟

未成年者も身分証明書

大阪少年補導協会　竹本靖秀

―貧富の差―

アメリカ滞在の六日目の朝は、ロスアンゼルス市内にあるYMCAホテルの一室で目をさました。暑い、まったく暑い、全身はシャワーを浴びたような汗でビッショリ。おまけに頭が少し重く、ガンガンする。「アメリカは大陸性気候やから汗なんかかけへん。カラリとしていてな」と日本出発前ご親切にわざわざ教えてくれた知人の声が妙に耳に残っていた。時計をみると午前十時半、七月半ばの〝真夏の太陽〟はすでに昇りきりその強い光線は窓のすき間から容赦なく入り込み、ベッドの中の温度を上げていたのである。

アメリカ到着以来、朝寝坊の連続だ。

朝昼兼用の食事はセルフサービスの店〝カフテリア〟で食べることにした。金米いたるところにあるこの店は、私のような貧乏旅行者にとってはこの上もないお気に入りだ。チップの心配もいらず、横文字のメニューに頭をひねることもなく、ただお盆をもって歩き回り、目の前に並べられている料理のうち好きなものだけをとり、そしてレジでお金を払ってから自分でテーブルまで運ぶのである。ベーコン三切と目玉焼き、それにパンとミルクで一ドル二〇セントひゃあー高い。日本でならいくらぼられても一五〇円位なのに…と思いながら一それでも腹がふくれてくると値段のことなどすっかり忘れ、裏街を歩いてみようと店を出た。

ロスアンゼルスの街は新旧がはっきりしている。市役所を中心とした二街にはすばらしい高層ビルが建ち並び、郊外から集まった十数本のハイウェイは見事な立体交差を見せている。こうした近代的な都市を誇示しながら、一方では黒く汚れた古いビル群が、また一つの都市を形づくっているのである。

そうした古いビル群の街角にはタバコをふかしたり、ホットドッグを立ち食いする労働者風の黒人達が多数たむろしている。彼らの服装はみすぼらしく、ただぼんやりと通行く人を眺めている。私などがその前を通ると、まるで人気俳優を見るかのように、熱っぽい目つきで見ている。

このアメリカに来る途中、船に乗っていたアメリカ人から「アメリカは階級差のない自由な国だ」と、よく聞かされて来た。しかし一歩アメリカの土を踏んで、まず目に入ったのは貧富の差であった。物質文明を誇るこの国にも、その物質に恵まれず、その日その日の生活に追われる人達が想像以上に存在していたのだった。最初訪れたサンフランシスコの街でも貧富の差が非常に感じられたが、このロスアンゼルスに来て、その色がますます濃くなってきた。

ぶらりと市の中央部にある公園へ行ってみた。昼下りの公園は人人…でいっぱいだった。白人や黒人、黄色人種など多種多様で、まるで人種の展覧会がはじまったような錯覚がおこる。チェスを楽しむ老人、立派な服装をした中年の夫婦、携帯ラジオを囲み、流れる音楽に拍手をとりながら歌っている黒人のグループなど、のどかな姿があちこちで見受けられる。

しかしこうした健全な場面ばかりではなかった。破れた運動靴をはき、ベンチにぼんやり座っているルンペンの姿や、ウイスキーの瓶をころがして酔っぱらって寝ころんでいる男もいたるところに見られた。私はその公園の前に来たとき、異様なふん囲気を感じ、一瞬立入ることをためらった。それでも十分程眺めていると、ふと頭に〝天王寺公園〟が浮かんできた。国こそ違え、ルンペンなど寝ころんでいるところは天王寺公園と大差ない…と思うと急に不安が消え去り、足は公園の中へ向いた。

噴水の横には八十名位の黒人の集団が目に映った。何やら演説らしいものを聞いていた。興味がわいてきたのでその黒人達の脇を抜け、前の方に出た。二百級の黒人の中に入ると、私など押しつぶされそうになるほど、チッポケになる。プーンと黒人独特の体臭が鼻につく。眼鏡をかけ青広をキチンと着こなし、ほっそりした黒人がさかんに熱弁をふるっていた。一生懸命聞いてみたが、私の語学力ではさっぱりわからない。「ブラック」という単語がたまに聞こえるので、黒人差別問題を言っているらしかった。

―靴みがき少年―

少しつかれてきたので、空いているベンチに座った。炎天下で暑かったが、隣に座っているバアさんが平気な顔をしているので、私も汗をふきながらしばらく休むことにした。

そこで気がついたのであるが、ベンチの周りにはたくさんの靴みがきの少年がいた。そしてベンチに座っている人達に「靴をみがこう、靴をみがこう」としっこくつきまとっていた。日本でも最近は靴みがきの少年の姿はほとんど見かけない。その日本より金持ちの国アメリカに、また福祉国家であるアメリカに、このような貧しい少年が余りにも多いので意外に思った。左側に座っていた頭のはげあがった五十がらみの男の前に一人の少年が近づき、靴をみがきを出した。私はその様子を写真に撮りたいと思い、ナップサックからカメラを取り出し、さっそくシャッターを切った。わずか二百ほどの距離だったのでその少年はシュッターの音でふり向いた。そして靴をみがく手を休めずに「ピーツ」と口ぶえを吹き近くにいる仲間に合図した。

集まってきたのは四人、そのうち三人が黒人で、もう一人は白人と黒人の混血児らしい。金髪手に靴みがきの道具をもっていた。靴をのせる台の中に靴クリームやブランが入っており、日本で見るのと変わらない。みがき台は万国共通らしい。口ぶえを吹いた少年はさかんに私を指さして集まった四人の少年に何やら喋っている。気持悪くなったが、こんなところでコソコソ逃げるようでは日本男児の治券にかかわると思い、じっくり落ちつくことにした。そのうち四人組が私の前に立ち、ジーパンに薄汚れた黄色のポロシャツを着た少年が「靴をみがこう」と言った。どうやら写真を撮らせたかわりに靴をみがかせろ、という意味らしい。これも話のタネだと思いみがき台の上に左足をのせてやった。そのポロシャツの少年は地べタに座り込み、思ったよりていねいに磨きだした。

約五分、磨き終った少年は「ワン　ダーラー」とゼスチュアまじりに一ドルを請求するのだった。いくら物価が高いアメリカでも、一ドルはちょっとベラボウだと思い「一ドルはダメ、五〇セントだ」と言いながら、少年の手の中に五〇セント銀貨を握らした。すると周りにいた少年達が一斉に万アーガアーわめきだした。余りうるさいので「あほんだらあ、むこうへ行きやがれ」と大阪弁でどなりつつ、桜島の工廠から、川一つ隔てた網島に居を卜めたのも、現在の学長や校長のように教学を監督・統率する責任も権限もなく、学校事務の責任者であり、以前の校主の地位に近かった。有田の校長就任と同時に、のち長く本校事務局の大黒柱となる垂水善太郎が幹事となり、有田・垂水のコンビが興正寺時代前半期の学校運営の中枢となるのである。

有田校長の功績として第一にしるさねばならないのは、司法省指定認可の獲得である。法律学校に学ぶ青年たちの多くが、将来の判事・検事を目指したことは当然であるが、本校の卒業生に判検事登用の受験資格を賦与する司法省指定認可、与えられていなかったことは、本校にとって致命的な弱点であった。

明治二十一年十月、指定認可の申請に失敗してより五年目の二十六年十月、有田校長以下、本校関係者は一致結束して、司法省に熱心に働きかけ、ついに同年十二月にいたり、東京の八校とともに、待望の指定認可が与えられた。他の八校がいずれも東京都下の所在校である中に、ひとり本校のみが遠く大阪に所在して、関西唯一の指定校となることができたのである。その結果、本校の基礎はかたまり、世間の信用もとみに重きを加えた。何よりも入学志望者の激増がそのことを物語っている。まったこの認可は、従前の卒業生にも遡及して適用され、校友多年の宿望はここに実現をみたのである。

指定認可の申請を行なうために、本校は学校組織の整備と改善を行なわねばならなかった。明治二十六年九月には「関西法律学校規則」を制定し、その第一歩をすすめた。翌二十七年二月には、講師送迎待遇及び俸給制の内規を定めた。創立当初の本校の財政がきわめて貧弱かつ不安定で、講師たちの犠牲的な奉仕でなり立ってきたことは前に述べたとおりである。しかし今や指定認可をゆるされ、学校としての基礎も定まったのであるから、今までのように無報酬ですませるわけにもいかなくなった。講師送迎待遇及び俸給制の内規は、本校における職員待遇規定の嚆矢として注目される。

ところでこの待遇規定はなかなか合理的な考え方にもとづいている。学校の月収の成績に応じて講師の送迎費・事務員の俸給を支出する仕組みである。すなわち一か月の収入を(1)五三円以上、(2)九一円以上、(3)一一七円以上、(4)一五六円以上、(5)一九五円以上の五等に分ち、それに応じて給与を支給したのである。当時の月収は大体一二〇―一三〇円程度であったから、三等率が適用されて、講師は一時間について三〇銭、一か月の総時間数は一三〇講時だから送迎費の合計は三九円。校長の給与は一一円、幹事六円、学監取締五円、書記四円、校丁四円であり、人件費の総計は六九円を要する計算である。校長以下事務員の薄給を目立っているが、講師の送迎費に至っては一人平均月に二、三円という零細なものであった。それでも僅かながら報酬を出したという点で、制度的には一大前進であった。

明治二十七年九月には「改正事務章程」、つずいて「学生規則」及び「定期小試験細則」を定めた。これらの詳細については割愛するが、司法省指定認可の獲得とともに、学校制度も整備され、ようやく法律学校としての体裁をととのえたのが、この有田校長の時代だったのである。

明治十九年十一月、京町堀で開業した関西法律学校は、まもなく淡路町に移り、さらに翌年四月二十四日、河内町の興正寺に移った。その後、明治三十六年十二月、江戸堀の新学舎に移るまでの十六年間、揺籃期の本校は、大きな銀杏の木のある興正寺の対面所（説教所）を教場として数多くの卒業生を送り出してきたのである。この十六年間は、本学の揺籃期であるとともに、将来の飛躍の基礎固めをした定礎期でもあった。とりわけ興正寺時代の前半は、学校としてもろもろの組織の整備された重要な時期であった。この興正寺前半期、すなわち明治二十三年五月から同二十八年末まで、校長の重責を荷ったのが有田徳一である。

本校創立の影武者

有田徳一が正式に本校と関係をもつようになったのは、明治二十一年一月、かれが本校の会計監督に任じたときにはじまる。当時の本校の財政はすこぶる貧弱かつ不安定で、わずかに二十一年一月にはじまるが、実はそれ以前から、といえばつまり創立当初から深い関係をもっていたと推測される。その推測の根拠の第一は、この欄にしばしば引用する志方銀の書簡であるが、その中に次のような叙述が見えるのである。

明治十九年大阪控訴院評定官井上操、同検事小倉久、同堀田正忠ノ三氏主唱者トナリ、有田徳一氏ハ井上氏ト相識リ、吉田一士氏ハ小倉氏ノ旧知ナル関係ヨリシテ初ヨリ協議ニ与カリ（中略）於是、有田、吉田両氏ハ専ラ校務ノ方面ヲ担当シ（以下略）

すなわち、有田徳一は、そもそも本校創立の協議に与っていること、そして創立後は吉田一士とともに校務・経営の面を担当していたことがこれによって知られる。すでに吉田一士の項で述べたように最初の校長には小倉久、校主には吉田一士が任じ、それぞれ教育・経営の責任を分掌したのであるが、有田は経営面において裏面に名前こそ出さなかったが、舞台裏から相当重要な役割を演じたことが推測される。いわば、創立の影武者だったのである。

最近私は、長野市三輪に現在住される井上操の令息、井上三郎氏（八二歳）をお訪ねして、右に述べた志方銀の回想が誤っていないという確信をさらに深めることができた。網島にあった井上操の邸宅と、有田徳一の邸宅とは、一つ門の隣り合わせであったことは、武田宣英の回想記などにも見えるが、三郎氏の談によれば、井上の邸宅はもと某富豪の別邸であったものを有田が譲りうけ、これを二軒に分割し、道路に面した方に有田が住み、川に面した方を井上に賃したものだということがわかった。つまり、井上の家の持主は有田だったのである。したがって志方の書簡にいう「有田徳一氏ハ井上氏ト相識リ」という関係は、少なくとも井上が大阪に赴任した明治十九年末から、有田と本校との関係は明治二十年末までの一年間、校務・経営の面を担当していたことを意味する。

ついに表舞台に出たのである。もっともこの場合の校長は、現在の学長や校長のように教学を監督・統率する責任も権限もなく、学校事務の責任者であり、以前の校主の地位に近かった。有田の校長就任と同時に、のち長く本校事務局の大黒柱となる垂水善太郎が幹事となり、有田・垂水のコンビが興正寺時代前半期の学校運営の中枢となるのである。

有田校長の功績として第一にしるさねばならないのは、司法省指定認可の獲得である。法律学校に学ぶ青年たちの多くが、将来の判事・検事を目指したことは当然であるが、本校の卒業生に判検事登用の受験資格を賦与する司法省指定認可、与えられていなかったことは、本校にとって致命的な弱点であった。

明治二十一年十月、指定認可の申請に失敗してより五年目の二十六年十月、有田校長以下、本校関係者は一致結束して、司法省に熱心に働きかけ、ついに同年十二月にいたり、東京の八校とともに、待望の指定認可が与えられた。他の八校がいずれも東京都下の所在校である中に、ひとり本校のみが遠く大阪に所在して、関西唯一の指定校となることができたのである。その結果、本校の基礎はかたまり、世間の信用もとみに重きを加えた。何よりも入学志望者の激増がそのことを物語っている。まったこの認可は、従前の卒業生にも遡及して適用され、校友多年の宿望はここに実現をみたのである。

指定認可の申請を行なうために、本校は学校組織の整備と改善を行なわねばならなかった。明治二十六年九月には「関西法律学校規則」を制定し、その第一歩をすすめた。翌二十七年二月には、講師送迎待遇及び俸給制の内規を定めた。創立当初の本校の財政がきわめて貧弱かつ不安定で、講師たちの犠牲的な奉仕でなり立ってきたことは前に述べたとおりである。しかし今や指定認可をゆるされ、学校としての基礎も定まったのであるから、今までのように無報酬ですませるわけにもいかなくなった。講師送迎待遇及び俸給制の内規は、本校における職員待遇規定の嚆矢として注目される。

ところでこの待遇規定はなかなか合理的な考え方にもとづいている。学校の月収の成績に応じて講師の送迎費・事務員の俸給を支出する仕組みである。すなわち一か月の収入を(1)五三円以上、(2)九一円以上、(3)一一七円以上、(4)一五六円以上、(5)一九五円以上の五等に分ち、それに応じて給与を支給したのである。当時の月収は大体一二〇―一三〇円程度であったから、三等率が適用されて、講師は一時間について三〇銭、一か月の総時間数は一三〇講時だから送迎費の合計は三九円。校長の給与は一一円、幹事六円、学監取締五円、書記四円、校丁四円であり、人件費の総計は六九円を要する計算である。校長以下事務員の薄給を目立っているが、講師の送迎費に至っては一人平均月に二、三円という零細なものであった。それでも僅かながら報酬を出したという点で、制度的には一大前進であった。

明治二十七年九月には「改正事務章程」、つずいて「学生規則」及び「定期小試験細則」を定めた。これらの詳細については割愛するが、司法省指定認可の獲得とともに、学校制度も整備され、ようやく法律学校としての体裁をととのえたのが、この有田校長の時代だったのである。

出征―凱旋―死去

以上、有田校長時代の本校の発展を概観してきたのである。この有田徳一の前歴は、あまり明かでない。旧広島藩士で、維新の際は、征東総督小松宮に従って東北地方に転戦し、陸軍工兵大尉となり、砲兵工廠につとめていたという。本校での記念撮影でも、必ず軍服を着用し、サーベルを携え、チョビ髭をたくわえた、いかにも退役軍人というタイプである。そうした一面、漢学にも造詣ふかく、とくに書の達人であったというのは、沖縄県や大阪府の典事（課長クラス）をした経歴によるものであろうか。

ところで、かれが砲兵工廠につとめていた時期と前県の典事をしていた時期の前後関係は明かでない。すでにふれたように、かれは士居通夫と親交があるから、松島遊廓の創設及び経営に深い関係をもっていたというのである。

その方面の歴史をひもとくと、松島遊廓が創設されたのは、明治四年十二月のことである。当時、大阪には四籌時以来の遊廓が、市中二十数か所に散在していた。大阪府は、維新後の社会の変化に対応し、かつは風俗の改善、かつは衛生上の意味から、これらを数か所に集中する方針を定め、明治二年に開掘された木津川と尻無川をつなぐ新堀より以北の、俗称松島の寺島に二大遊廓を建設し、市中群小の遊女茶屋を誘致することになった。これが松島遊廓である。士村行彫の「日本遊里史」（一八五四）によると、

松島遊廓設立の準備に就ては、官選で堺筋田太郎という属官と、民間では新町廓・大垣屋の主人で、当時戸長をしていた沖田太郎兵衛が首唱者となり、侯客堺仁三郎の尻押で各遊所に協議し、ほぼ同意を得て奔走した。伝ふる所によれば、当時の府知事西四辻公業氏は之に反対の意見を持っていたが、府権大属外国局会計長たりし松尾臣善氏が、大阪の膨張は西方にありとして この埋設を勧説主張した結果だといわれている。

と見える。当時は、名前を変えることがいとも簡単に行なわれたから、右に見える有田太郎というのが、有田徳一の前名であったとすれば、かれは大阪府の典事時代、松島遊廓の設置に相当積極的な役割を果したことになる。

次に士居通夫については、右の文章に見える松尾臣善氏なる人物が、府権大属外国局会計長でありたかどうか注意される。すなわち士居通夫は、明治二年正月、大阪府外国事務局御用掛助勤となり、同九月には府の権少参事に栄進している。かれは明治四年十一月の官制改革とともに辞官するが、同年十二月二十六日まで外務局に勤化し、一時、大阪府の権少参事（局長クラス）をやめた。何よりも入学志望者の激増がそのことを物語っている。まったこの認可は、従前の卒業生にも遡及して適用され、校友多年の宿望はここに実現をみたのである。

指定認可の申請を行なうために、本校は学校組織の整備と改善を行なわねばならなかった。明治二十六年九月には「関西法律学校規則」を制定し、その第一歩をすすめた。翌二十七年二月には、講師送迎待遇及び俸給制の内規を定めた。創立当初の本校の財政がきわめて貧弱かつ不安定で、講師たちの犠牲的な奉仕でなり立ってきたことは前に述べたとおりである。しかし今や指定認可をゆるされ、学校としての基礎も定まったのであるから、今までのように無報酬ですませるわけにもいかなくなった。講師送迎待遇及び俸給制の内規は、本校における職員待遇規定の嚆矢として注目される。

ところでこの待遇規定はなかなか合理的な考え方にもとづいている。学校の月収の成績に応じて講師の送迎費・事務員の俸給を支出する仕組みである。すなわち一か月の収入を(1)五三円以上、(2)九一円以上、(3)一一七円以上、(4)一五六円以上、(5)一九五円以上の五等に分ち、それに応じて給与を支給したのである。当時の月収は大体一二〇―一三〇円程度であったから、三等率が適用されて、講師は一時間について三〇銭、一か月の総時間数は一三〇講時だから送迎費の合計は三九円。校長の給与は一一円、幹事六円、学監取締五円、書記四円、校丁四円であり、人件費の総計は六九円を要する計算である。校長以下事務員の薄給を目立っているが、講師の送迎費に至っては一人平均月に二、三円という零細なものであった。それでも僅かながら報酬を出したという点で、制度的には一大前進であった。

明治二十七年九月には「改正事務章程」、つずいて「学生規則」及び「定期小試験細則」を定めた。これらの詳細については割愛するが、司法省指定認可の獲得とともに、学校制度も整備され、ようやく法律学校としての体裁をととのえたのが、この有田校長の時代だったのである。

有田・士井と某商事

以下はいささか余談めくが、読者の御教示を仰ぐ意味で、「七十年史」七八頁にみえる有田・士居の携っていたという「某事業」の問題にふれておきたい。かつて私は、横田教授とともに、生前の武田宣英翁に目にかかり、次のような話を聞いたことがある。「某事業」とは、松島遊廓のことで、有田徳一氏と士居通夫氏の共同事業であったのである。すなわち士居通夫は、明治二年正月、大阪府外国事務局御用掛助勤となり、同九月には府の権少参事に栄進している。かれは明治四年十一月の官制改革とともに辞官するが、同年十二月二十六日まで外務局に勤化し、一時、大阪府の権少参事（局長クラス）をやめた。何よりも入学志望者の激増がそのことを物語っている。まったこの認可は、従前の卒業生にも遡及して適用され、校友多年の宿望はここに実現をみたのである。

公園にいるくつみがき少年（ロスアンゼルスで）

関西大学を築いた人々

関西唯一司法省指定校に

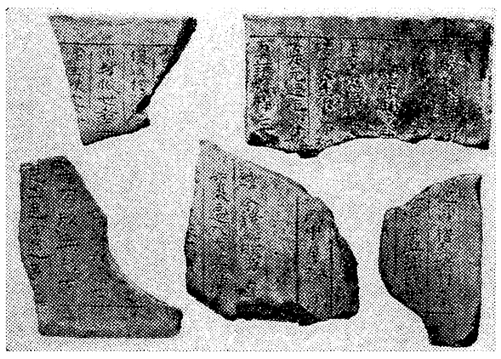
関西唯一の功労者

有田徳一

文学部教授　薗田香融

㊷ 題字は樫本信雄校友会長

考古学入門 ―9―



―瓦　経―

瓦経は粘土の瓦板に経文を陰刻し、焼成したもので、平安時代以後埋経のために製作されたものである。普通瓦板の表裏両面に縦の罫線をひき、丹念に写経が行なわれているが、その大きさは大体20～30㎝前後の形式が多い。書写される経典は法華経や大日経などがある。

（文学部考古学資料）

田熊汽缶
田熊汽缶製造株式会社
本社／大阪市北区堂島中1―16
支社／東京都中央区日本橋通1―4（柴太楼ビル）
名古屋・福岡・札幌・広島・仙台・高砂・京都

ニッカバー
ポッカ
北新地店　北区永楽町18番地（代）344・609。
北　店　北区曽根崎中1丁目2番地（312）4787
心斎橋店　南区心斎橋筋2丁目32番地（211）4787

民間車検工場
自動車健康診断開設
校友の方は特別相談に応じます
株式会社 巌（イワオ）　TEL 本社（762）6741
社長 千巌克郎

これ以上のサケはない
サケのきわみ――新発売!!
極上　極妙　極意
最高の品質　うまさの極み
この酒を待っていた――と　この酒を待っていた――と
格・合理性の極み　愛酒家には喜びの極み
灘・魚崎　金露酒造株式会社

高級装履製造卸
浪速の華本舗
株式会社ヤマト商店
代表取締役　戸谷清太郎
大阪市浪速区日本橋東四丁目五の一八
電話（633）八五二一～三

各種硝子販売・工事請負
株式会社 大阪硝子店
代表取締役　佐々木廣
大阪市東区本町五丁目四
電話（二六二）三五三六―八番

レストラン・結婚式場
御宴会・各種出張パーティ
株式会社 大洋軒
取締役社長　高山光太郎
本店　大阪市東区法円坂町10（大阪府農林会館）TEL（941）5625
支店　大阪市東区谷町3―15（大阪銀行倶楽部）TEL（942）3856
支店　大阪市東区釣鐘町2―33（大阪薬業健保センター）TEL（941）7202
支店　大阪市西区土佐堀1―1（大同生命ビル）TEL（441）4460
支店　大阪市北区玉江町2―2（大阪国際貿易センター）TEL（441）9606
支店　大阪市北区若松町8番地の2（大阪弁護士会館）TEL（364）0251
支店　大阪市福島区堂島浜通4―6（大阪ファミリー会館）TEL（458）1275
支店　大阪市此花区四貫島大通1―10（此花産業会館）TEL（461）6263

異動

▽北山充男（昭四三学一法）和歌山市宮橋一六一五【㈱和歌山ステーションビルディング】▽森下茂雄（昭八二商・昭一一一二一四大法）淳子市小坪一一四【日新東京社会事業国事務局長】東京都千代田区一ツ橋一一一三一六▽内田嘉瑞（昭三一学一国）枚方市西禁野二一四一一▽大沢修作（昭三四学二経）宮市浅間町一一▽岡田俊光（昭三八学工電）橿原市東坊城町二一二▽奥村寿英（昭二九学二経）西宮市松山町二一八一一〇四▽山田和田町一〇〇二▽勝井信夫（昭四一学一法）富田林市久野喜台一一二〇一二九▽川越隆（昭二八学一法）船橋市藤原町四二九▽河内克夫（昭二八学一商）埼玉県北足立郡大和町下新倉五二三三▽神庭民生（昭四学一経）八尾市上の島町南二一〇一▽北原正敏（昭四一学一経）船橋市行田町八北千石鰐船橋寮▽木下晶信（昭三五学一政）昭三六学一法）豊中市上野二一六〇▽久保田勝彦（昭四一学一経）松江市西川津町三一五一▽小出敏則（昭三九学一法）西宮市中手園三保町二▽郡和久（昭四四学工機）吹田市泉町四一二一一岡本様方▽小村英和（昭三七学工電）日立市国分町三一七一三一一新山ヴラス一〇六号▽斎藤隆穂（昭四一学一経）広島市舟入本町二五一二三▽島崎高偉（昭四四学一商）灰木市上泉田町二一二六日本鋼管工事㈱灰木寮▽島田大八（昭九専二法・昭二二大法）金塚市野上四―一七―八▽清水仁（昭三九学二法）大阪市旭区大宮町七一一▽清水卓郎（昭三九学工金・昭四一院修工）桑名市北別所一八二▽下山勝彦（昭四一学一法）神戸市兵庫区楠本町一一二四▽正田義和（昭四四学一商）吹田市泉町五一二六一三北昭光荘▽杉谷喜代（昭二五専二法・昭二七学一法）羽曳野市古市六一四一一▽高木勝美（昭四四学二経）大阪市東淀川区東三国町一一三七、一九棟二一五号▽竹腰満嗣（昭四一学一経）神戸市長田区若松町四一五▽谷川守（昭四一学工電）鳥取県東伯郡三朝町大字牧一八四▽谷口善信（昭四五学二法）寝屋川市幸町五一八一四〇三▽津守登志之（昭四五学一法）藤井寺市国府一丁目五一二六▽飛田克己（昭四四学二経）蒲郡市三谷町弥生一一四▽土橋正周（昭四〇学工電）堺市中安井町三一一二四東陽電気商会▽友井伊三郎（昭六大予・昭九大法）羽曳野市西浦一七四〇―二〇▽友金稔（昭四五学工機）市川市南八幡三一一八―五ライオン油脂㈱八幡寮▽中川四郎（昭三八学一法）島根県隠岐郡西郷町港町塩口六七▽中西完治（昭四〇学一法）神戸市垂水区星陵台三一四一七▽中村英治郎（昭三四学二経）奈良市五条畑町一一二九一一▽中村敏彦（昭四四学工化）岡山市西大寺西行幸三九五一一帝国化学第一寮▽中村教義（昭二六専一法）大阪市住吉区山之内町四一一四▽西森率（昭四四学二史）高知市上町四一九一一四県営住宅一八▽橋爪一雄（昭四四学一法）灰木市宮元町二一三幸楽荘一一号▽橋本俊秀（昭三四学一商）寝屋川市大字太秦五三▽長谷川和正（昭四〇学一経）相生市相生二一一〇一九▽長谷川信弘（昭四一学一法）名古屋市北区上飯田北町四一七五一四上飯田第二公団三一六一八▽羽原義明（昭三八学一経）神戸市垂水区神陵台一一県住明舞北鉄筋一四一五九九▽東正実（昭一一専一法）呉市江原三一一一▽東本春次（昭一八専商）大阪府南河内郡狭山町大字今熊三九五一三五三八衣区一四八▽平井庄作（昭四四学一法）大東市北条四一七一一五

移転

▽朝広啓朗（昭三一学一経）奈良市内十原町一二▽尼田修一（昭三五学一経）西宮市津門西口町九一一三▽網本浩幸（昭四一学一法・昭四四院修法）堺市東区西町二一三番一八号▽稲葉隆子（昭三九学一英）【旧姓石川】堺市三条通六一一八▽石倉恒夫（昭三九学一商）東京都足立区花畑町五三二六▽岩田衛正（昭四四学工機Ⅱ）羽曳野市埴生野八五三一二八▽上野勝則（昭四〇学一法）富田林市高辺台三一四六五一五〇四▽上原義則（昭四〇学二法）茨木市紫明園一番日東電工春日丘社宅▽井下猛（昭四三学一英）高槻市大塚町三一四一一▽今井湧太郎（昭三九学一商）豊中市新千里南町二一三〇一一二〇四▽岡田徹光（昭三八学工電）橿原市東坊城町二一二▽奥村寿英（昭二九学二経）西宮市松山町二一八一一〇四▽山田和田町一〇〇二▽勝井信夫（昭四一学一法）富田林市久野喜台一一二〇一二九▽川越隆（昭二八学一法）船橋市藤原町四二九▽河内克夫（昭二八学一商）埼玉県北足立郡大和町下新倉五二三三▽神庭民生（昭四一学一経）八尾市上の島町南二一〇一▽北原正敏（昭四一学一経）船橋市行田町八北千石鰐船橋寮▽木下晶信（昭三五学一政）昭三六学一法）豊中市上野二一六〇▽久保田勝彦（昭四一学一経）松江市西川津町三一五一▽小出敏則（昭三九学一法）西宮市中手園三保町二▽郡和久（昭四四学工機）吹田市泉町四一二一一岡本様方▽小村英和（昭三七学工電）日立市国分町三一七一三一一新山ヴラス一〇六号▽斎藤隆穂（昭四一学一経）広島市舟入本町二五一二三▽島崎高偉（昭四四学一商）灰木市上泉田町二一二六日本鋼管工事㈱灰木寮▽島田大八（昭九専二法・昭二二大法）金塚市野上四―一七―八▽清水仁（昭三九学二法）大阪市旭区大宮町七一一▽清水卓郎（昭三九学工金・昭四一院修工）桑名市北別所一八二▽下山勝彦（昭四一学一法）神戸市兵庫区楠本町一一二四▽正田義和（昭四四学一商）吹田市泉町五一二六一三北昭光荘▽杉谷喜代（昭二五専二法・昭二七学一法）羽曳野市古市六一四一一▽高木勝美（昭四四学二経）大阪市東淀川区東三国町一一三七、一九棟二一五号▽竹腰満嗣（昭四一学一経）神戸市長田区若松町四一五▽谷川守（昭四一学工電）鳥取県東伯郡三朝町大字牧一八四▽谷口善信（昭四五学二法）寝屋川市幸町五一八一四〇三▽津守登志之（昭四五学一法）藤井寺市国府一丁目五一二六▽飛田克己（昭四四学二経）蒲郡市三谷町弥生一一四▽土橋正周（昭四〇学工電）堺市中安井町三一一二四東陽電気商会▽友井伊三郎（昭六大予・昭九大法）羽曳野市西浦一七四〇―二〇▽友金稔（昭四五学工機）市川市南八幡三一一八―五ライオン油脂㈱八幡寮▽中川四郎（昭三八学一法）島根県隠岐郡西郷町港町塩口六七▽中西完治（昭四〇学一法）神戸市垂水区星陵台三一四一七▽中村英治郎（昭三四学二経）奈良市五条畑町一一二九一一▽中村敏彦（昭四四学工化）岡山市西大寺西行幸三九五一一帝国化学第一寮▽中村教義（昭二六専一法）大阪市住吉区山之内町四一一四▽西森率（昭四四学二史）高知市上町四一九一一四県営住宅一八▽橋爪一雄（昭四四学一法）灰木市宮元町二一三幸楽荘一一号▽橋本俊秀（昭三四学一商）寝屋川市大字太秦五三▽長谷川和正（昭四〇学一経）相生市相生二一一〇一九▽長谷川信弘（昭四一学一法）名古屋市北区上飯田北町四一七五一四上飯田第二公団三一六一八▽羽原義明（昭三八学一経）神戸市垂水区神陵台一一県住明舞北鉄筋一四一五九九▽東正実（昭一一専一法）呉市江原三一一一▽東本春次（昭一八専商）大阪府南河内郡狭山町大字今熊三九五一三五三八衣区一四八▽平井庄作（昭四四学一法）大東市北条四一七一一五